



CSRレポート  
2012

参天製薬株式会社

# 会社概要 (2012年3月31日現在)

社名：参天製薬株式会社  
 本社：〒533-8651  
 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号  
 創業：1890年  
 資本金：6,695百万円  
 従業員数：3,053名(単体:1,927名)

## 〈事業概要〉

参天製薬グループは、日本をはじめ、アジア、欧州、北米の各地域において、医療用眼科薬の研究開発・製造・販売を中心にグローバルに事業を展開しています。医療現場における各地域の特性を十分に考慮し、医師・薬剤師とともに、患者さんの治療に貢献できる製品を提供し続けることが、私たちの使命と考えています。

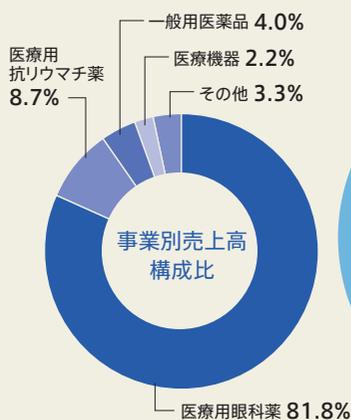
### 売上高および海外売上高比率



### 営業利益および営業利益率



### 研究開発費および研究開発費対売上高比率



**医療用眼科薬**

「ヒアレイン」

国内市場シェア 国内地位  
**36.1% 1位** ※1

**医療用抗リウマチ薬**

「アザルフィジンEN錠」

国内市場シェア 国内地位  
**41.0% 2位** ※1

**一般用医薬品**

「サンテFX Vプラス」

国内市場シェア 国内地位  
**19.6% 2位** ※3

※1：2011年度の国内市場シェアおよび国内地位：抗リウマチ薬は疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARDs) ※2市場での国内シェアおよび国内地位 (出典：IMSデータに基づく参天製薬分析)  
 ※2：関節リウマチの病因の一つとされる免疫異常を是正することにより炎症を鎮静化させ、抗リウマチ効果を発現させる、原因療法に一步近づいた薬剤の総称  
 ※3：2011年度の国内一般用点眼薬市場でのシェアおよび国内地位 (出典：参天製薬集計資料)

## 参天製薬の歴史

### Chapter 1 「大学目薬」の誕生

参天製薬の創業は今から120年以上前にさかのぼります。現在、眼科薬(目薬)の売上高が全体の8割以上を占め、国内トップ、世界有数の眼科薬メーカーとなった参天製薬ですが、その始まりは意外にも目薬ではありませんでした。そして、創業から9年後、初期の成長を支えたヒット商品、「大学目薬」を発売。初代製品の発売から100年以上が経過した現在でも、日本でいちばんのロングセラー目薬としてそのブランドが引き継がれています。

#### 1899(明治32)年 「大学目薬」を発売

明治初期、来日した外国人医師は一律に日本人に眼病が多いのに驚いたといわれています。それほどまでに当時、日本には目薬に対する大きな需要があったのです。そこに登場したのが、「大学目薬」。「世の進むに従い、目薬にもこんな立派なものができる」という自信に満ちあふれた宣伝コピーと、権威ある大学教授をイメージさせる、ひげとメガネの博士の商標で、たちまち日本全国に広まりました。



### Chapter 2 目薬に特化

第二次世界大戦の戦災により本社および大阪市内3工場を焼失し、苦難の時代を迎えます。この苦境を乗り切ったのは、いち早く目薬事業への特化を打ち出し経営資源の集中を行った決断力と先見性でした。

#### 1952(昭和27)年 目薬中心の事業戦略で会社再建を図る

1952(昭和27)年「大学ペニシリン目薬」、1953(昭和28)年「大学マイシリン目薬」、1954(昭和29)年「大学スーパー目薬」を発売。



### Chapter 3 医療用が中心に

医療用医薬品の「チモブール」「タリビッド点眼液」「リマチル」などの新薬が相次ぎ、急成長期を迎えます。それに合わせて事業も拡大し、大阪に中央研究所、石川県に能登工場を開設、さらに全国各地に営業所を新設するなど、国内拠点の拡充を進めました。

### Chapter 4 新たな成長ステージへ

国内の医療用点眼薬事業で築いた基盤をもとに、海外事業展開を積極化。1993(平成5)年米国、1994(平成6)年ドイツ、1997(平成9)年フィンランドに拠点を設立したのをはじめ、現在、世界10カ国に13拠点を構え、臨床開発・製造・販売を行っています。

## 編集方針

●本報告書は、参天製薬および国内外のグループ会社のCSRに対する考え方や取り組みについて、多様なステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えするための年次報告書です。

●本報告書では、参天製薬グループの社会的責任を果たすための取り組みをさまざまな視点から具体的に報告するとともに、社内外のステークホルダーからの意見を掲載することに努めました。

●昨年度までは「社会・環境報告書」として発行しておりましたが、グローバル化の進展とともに、世界基準でのグループ全体の社会的責任をより明確にし、高い倫理観と誠実な行動をこれまで以上に徹底していくことを踏まえて、本年度より「CSRレポート」として発行いたします。

●当社の社会的責任をグローバルな視点からご報告するために、巻頭に「世界の眼科医療への貢献」をテーマに特集ページを設けました。

●本報告書では、ISO26000の考え方を取り入れた当社のCSR体系の再構築について解説を加えるとともに、同テーマを議題に実施したステークホルダーダイアログの内容も掲載しています。

●実践報告は、「参天企業倫理綱領」が重視する3つの視点「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」に沿って編集しています。報告内容ごとに目指すテーマを明らかにしながら、2011年度の主な取り組みと来期への課題を体系的にまとめました。

## 対象範囲

国内では、参天製薬の全事業所および国内子会社の株式会社クレールを対象としています。海外においては、サンテン・オイ、サンテン・インク、参天製薬(中国)有限公司、韓国参天株式会社、ノバガリ・ファーマ・エス・イー・エスの一部子会社を含んでいます。

## 対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日  
(一部2012年4月以降も含む)

## 参考にしたガイドライン

報告書の作成に当たっては、環境省「環境報告ガイドライン2007年版」、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」を参考にしています。また、当社CSR体系の再構築には国際標準化機構「ISO26000」の考え方を取り入れています。

## 次回発行予定

2013年9月



## CONTENTS

TOP Message 代表取締役社長兼CEO 黒川 明	03
---------------------------------	----

## 特集 世界の眼科医療への貢献

〈Report1〉グローバル化に向けた歩み	05
〈Report2〉グローバル研究開発体制の整備	07
〈Report3〉地域事情に応じた医療貢献	09

参天製薬グループのCSR	11
--------------	----

CSRマネジメント	13
-----------	----

## 実践報告

〈顧客との信頼〉 適正な製品・サービスの提供	15
---------------------------	----

〈社員の責任と成長〉 人権尊重／労働・安全衛生／公正な事業取引	21
------------------------------------	----

〈社会との調和〉 環境保全	25
社会貢献	31

ステークホルダーダイアログ	35
---------------	----

CSRマネジメントの推進／今後の取り組み	37
----------------------	----

第三者意見	38
-------	----



## 基本理念に基づき 真の顧客志向を追求し、 世界の患者さんのQOL<sup>\*</sup>向上に 貢献する企業を目指します。

時の流れはとどまることなく、あの東日本大震災からも暦通りの月日が過ぎていきました。

被災地の復興は進んでいるとはいうものの、

まだ多くの被災された方が不便な生活を強いられていることに、心よりお見舞い申し上げます。

参天製薬は、被災地の一日も早い復興を願い、義捐金抛出のほかに、

被災地への医薬品供給や、社員が被災地に出向いてボランティア活動を行うなど、できる限りの支援をいたしました。

被災時に患者さんが必要とされる医療用眼科薬の入手を助けるホームページをインターネット上に立ち上げ、

混乱時においても製品を供給できる仕組みの整備を検討するなど、業界を挙げた取り組みも進んでいます。

当社の事業活動と同様、こうした支援活動はすべて、「天機に参与する」という基本理念に基づいています。

当社は今後も、重要な社会貢献活動の一環として、被災地復興への貢献に努めてまいります。

※QOL (Quality of Life) : 生活の質



## グローバルカンパニーとしての 基本理念の重要性

参天製薬は、創業100周年を迎えた1990年に「世界の参天」を目指す「21世紀長期ビジョン」を掲げ、以来変わることなく事業のグローバル化を推進しています。すでにアジアを中心に市場が広がり、欧州での事業も伸展、アメリカを基点とするグローバル臨床開発体制の構築も進む中、海外の拠点および社員数が、急速に増加しています。

言語も文化もさまざまな社員を多数迎え入れる中で、事業の拠り所となる基本理念は、重要度を増すばかりです。理念もなく、ただ指示に従ってこなす仕事には、未来を拓く力が宿りません。社員は、基本理念を理解・共有し、さらにそれに基づくビジョンの実現を自ら模索することで成長します。そして、それが会社発展の原動力となるのです。世界に大きく広がることで、ともすればばらばらになりがちな参天製薬グループを一つにまとめる求心力も、基本理念という共通の価値観を共有することから生まれます。

私は、基本理念をグループの全社員に浸透させることを、極めて重要な経営者の使命の一つと考え、あらゆる機会をとらえて実践に努めてきました。

## 顧客から信頼され存在感のある 企業を目指して

当社の基本理念であり、創業の精神でもある「天機に参与する」は、自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献することを意味しています。さらに、現在の当社の事業活動を踏まえ、「目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、社会への寄与を行う」と基本理念で表現しています。そして、その実践を通じて、世界で存在意義のある企業となることを目指しています。その中で特に大切にしているのは、患者さんと患者さんを愛する人たちから、揺るぎない信頼を得ることです。

単に今必要とされている医薬品を継続的に提供し続けるだけでなく、将来を見越し、今後必要とされる、まだこの世にない製品やサービスを他に先駆けて開発し、期待に応えていかなければなりません。このことを広く実践することで、製品の開発力・供給力の高まりとともに、世界中に当社の医薬品が届けられるようになり、だれもが知っている企業、存在感のある企業へと成長していくことができるものと思います。さらにその上で適正な収益を確保しつつ投資することによ

り、顧客からの信頼を深める事業活動を、ますます高めていくことができると考えています。

そのためにはすべての社員が、患者さんや医療の現場で従事されている方々の心理や行動などに触れなければなりません。そして、その方々の置かれている状況、医療現場の課題などを深く知るべきだと思います。この「真の顧客志向」を出発点に、より誠実に社会的使命を果たすことによって、世界中の顧客の間で、「参天の薬を使ってよかった」、「本当によくなった」という声が広がるようになってほしい。それが、社会的責任を遂行する最も望ましい姿だと考えています。

## CSRの核となる 社員一人ひとりの意識

当社は2020年に向けた長期的な経営ビジョンを発表し、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指しています。これは、会社の規模や業績の拡大だけでなく、CSRを推進していく上での目標でもあります。世界の医療に、より大きく貢献してこそ、「参天」が世界のブランドとなり、存在感を示すことができます。このため、社員一人ひとりがCSRへの意識をさらに高めていけるように、企業風土の改革にも着手しました。すでに述べてきたような「真の顧客志向」や、視点を外に向け、常に他者から学びながら一歩でも先を行く「外向きの思考・姿勢」などを、参天製薬グループ共通のDNAとして風土化していくことがねらいです。

人は、仲間と心をつなげて目標に向かって仕事に取り組んでいる時にやりがいを感じ、困難な状況も乗り越えていくことができます。当社は生命関連企業としての社会的責任を担っているだけに、社員のだれもが意識の持ち方一つで仕事へのモチベーションを大きく高めることができます。いかに一人ひとりの意識を変え、持てる力を最大限に引き出して、目標に向け結集させていくか。私は、それが今後の厳しい競争環境下での挑戦を可能にする鍵になると考えています。効果を期待できる施策はすべて打ち、世界の医療へのより大きな貢献に向けて努力を続けてまいります。

皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年9月

代表取締役社長兼CEO

黒川 明

# 特集

## 世界の 眼科医療への貢献

### Report 1

## グローバル化に向けた歩み

# 世界の患者さんと 患者さんを愛する人たちの ために

参天製薬は、1990年の創業100周年を機に、「世界の参天」を目標に掲げました。

それは、参天製薬が一世紀をかけて培ったノウハウを活かし世界の患者さんと、患者さんを愛する人たちのために貢献していこうという強い決意の現れであり、その目標に向かって世界各国の実情に応じて展開してきた当社の取り組みは、着実な成果を生んでいます。

### 真の顧客ニーズに応えることで果たされる 世界の眼科医療への貢献

グローバル化を目指し積み重ねてきた20余年は、世界の顧客ニーズに応えるための歩みでした。自社販売にこだわることなく、販売提携や代理店販売など地域事情に適した販路を開拓してきたのも、患者さんに必要とされる医薬品を一刻も早く提供するためです。現在、10カ国に13の拠点を展開し、50カ国以上で製品を販売するに至りました。

### 先進諸国での新薬の提供のみならず 地道な取り組みを重ねる途上国医療への貢献

先進諸国では当社の高い専門性を活かした新薬を、待望している患者さんのもとへ少しでも早くお届けできるよう事業を展開。また途上国では、一人でも多くの患者さんが失明などの状況から救われるよう、眼科医療環境の向上を支援するとともに、今、そして将来にわたって必要な医薬品を提供し続けられる体制づくりに取り組んでいます。



1993

●サンテン・インク設立



米国における研究開発・事業開発の拠点として設立

1996

●滋賀工場竣工



グローバル化に対応するための生産の中核拠点として竣工

1997

●サンテン・オイ設立



海外で初めての生産拠点および北欧・東欧への市場参入のためフィンランドに設立

1994

●サンテン・ゲーエムベーハー設立

欧州における情報収集と市場開発の拠点としてドイツに設立

●奈良研究開発センター竣工



最新技術の導入による研究機能強化を目的として竣工

●台湾参天製薬股份有限公司設立

台湾での販売拡充のため設立

2000

### グローバル化に向けてスタート

1990

### 21世紀長期ビジョンを策定、目標「世界の参天」

創業100周年を迎え、21世紀に向け、「眼」と「健康」をテーマとして最高の製品とサービスで社会に貢献することをビジョンとし、「世界の参天」を目標に掲げる

1995

1996

●北京事務所開設

中国における情報収集と市場開発の拠点として開設



2000

●韓国参天製薬株式会社設立

韓国における情報収集と新製品の販売拡充のため設立



2001

●アドバンスド・ビジョン・サイエンス・インク買収

眼内レンズ事業の拡充のため米国の医療機器開発製造専門企業を買収

## 〈主要拠点〉



## 幅広い学術情報提供活動を通じた信頼関係の構築

当社の製品ラインナップは幅広く、東南アジアなどでは眼科医院の開業に必須の眼科薬供給元として認識されているほどです。さらに学会や研究機関への支援をはじめ、眼科医療に貢献する当社の学術活動は広く認知されています。医療現場で重要な役割を担う中で築かれた医療関係者との信頼関係は、当社にとってかけがえのない財産です。

## 高品質な医薬品を継続的に安定供給するために

「参天の薬は眼科医療に必要不可欠」こうした評価は当社の大きな誇りです。と同時に私たちには、高品質な医薬品の安定供給という大きな責任があります。当社の医療用点眼剤の年間製造本数は世界の5工場で約3億本と、世界最大級の規模。より多くの患者さんのQOL向上に貢献するため、今後もグローバルな製品供給体制の充実を目指し続けます。

世界で存在感のある  
スペシャリティ・カンパニー

2020

2020年に向けた長期的な経営ビジョンを2011年に発表

2012

2010

製品販売国  
50カ国以上

海外10カ国  
13拠点

点眼剤  
年間製造本数  
約3億本※

※5mlボトル換算

2005

### 2005

#### ●参天製薬(中国) 有限公司設立



中国での現地生産および自社販売による競争力強化のため蘇州に設立

### 2007

#### ●蘇州工場竣工



中国市場における生産拠点として竣工

### 2011

#### ●サンテン・インク 本社移転

グローバル臨床開発機能を強化するためサンフランシスコ市近郊に移転



#### ●サンテン・インドア・プライベート・リミテッド設立

インドにおける情報収集と市場参入の拠点として設立

### 2012

#### ●ノバガリ・ファーマ・エス・イー買収



同社が保有する製剤技術や開発品による事業拡大のためフランスのノバガリ社を買収

#### ●サンテン・ホールディングス・イーユー・ビー・ヴィ設立

欧州事業の効率的かつ効果的なガバナンス体制を構築するためオランダに設立

# 特集

世界の  
眼科医療への貢献

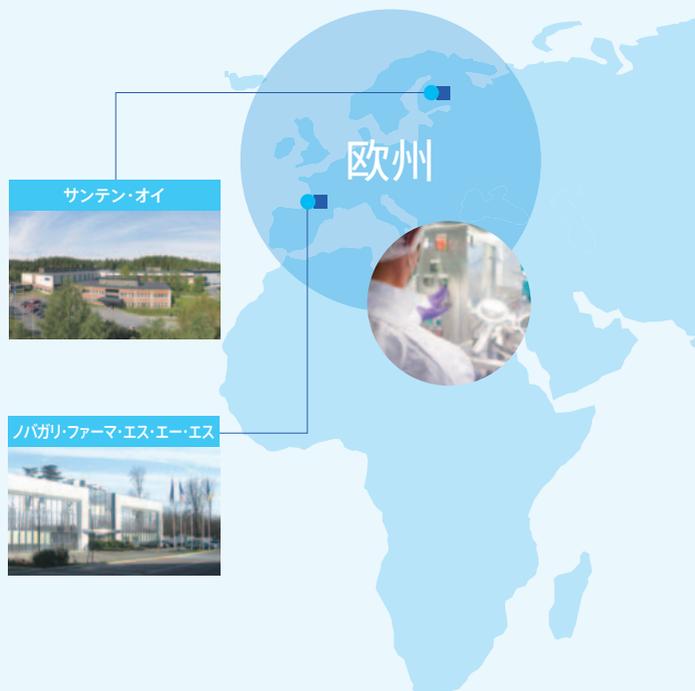
Report 2

## グローバル研究開発体制の整備

# 世界中の患者さんが 待ち望んでいる

# 新薬の早期提供を目指して

製薬メーカーとしての使命を果たすためには、世界の患者さんが待ち望んでいる新薬を少しでも早く患者さんのもとへお届けしなければなりません。参天製薬グループは、新薬の開発スピードを加速させるため、グローバル研究開発体制を整備しました。グローバル化への歩みは、新たなフェーズを迎えています。



### 世界各地の医療に真に貢献するための グローバル視点での研究開発

世界各地の医療に真に貢献するには、世界共通ニーズと地域固有ニーズの双方に応えなければなりません。共通ニーズに対しては一本化してスピードを高め、一方では各地域密着で顧客ニーズにきめ細かく応えていく。そんな、グローバルとリージョナルの両側面を備えた体制こそ、参天製薬が目指すグローバル視点での研究開発です。

### アンメットニーズにいち早く応えるための 創意工夫によるグローバル製品の創出

未だ満たされていない医療ニーズに一日も早く応えるために、自社創業とともに外部資源を活用した研究開発（ネットワーク型創業）にも注力し、創薬の両輪として機能させています。製剤化技術などを駆使することにより、適応症の拡大や、剤形・用法・用量の追加に取り組んでいます。

#### ■ 参天製薬製品の世界市場販売事例

一般名	効能・効果	地域	販売年
タフルプロスト <sup>※1</sup>	緑内障・高眼圧症	欧州	2008年
		米国	2012年
		南米	2010年
		アジア	2010年
レボフロキサシン <sup>※2</sup>	外眼感染症	欧州	2002年
		米国	2000年
		アジア	2001年

※1：米国、南米、欧州（ドイツを除く）は米メルク社が販売

※2：米国はビスタコン社が販売



## グローバル研究開発体制

参天製薬はこれまで日・米・欧の3極でそれぞれの特徴を活かした研究開発活動を進めてきました。今後は、米国を基点としたグローバルな臨床開発機能を強化し、新たな知恵と組織的能力の連携によって、「創造と革新」を加速していきます。

● 研究開発拠点 ■ 臨床開発拠点

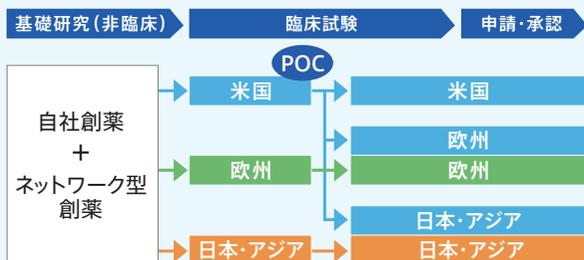


## 米国を基点とした グローバル臨床開発体制への移行

医薬品承認制度が日本と異なる米国では、製品によっては臨床開発に要する時間を短縮することが可能です。製品コンセプトの妥当性を確認するPOC<sup>※3</sup>を確立するまでの前期臨床開発は米国中心、その後はニーズに応じ地域ごとに後期臨床開発を実施します。このため当社は、臨床開発の基点を米国に移行しました。

※3：Proof Of Conceptの略。新薬候補物質の製品コンセプトの妥当性を、臨床試験において有効性や安全性の面から実際に確認すること。

## ■グローバル臨床開発推進イメージ図



## 多様な専門性を有する 優れた人材の確保と交流

体制の如何を問わず、優れた創薬実現の鍵を握るのは人材に他なりません。当社は、メガファーマでの経験を持つ研究開発者や臨床経験のある眼科医など、多様な人材の確保に積極的に取り組んでいます。また、M&Aを通じ、専門分野、企業文化、経験などが異なる人材を多数迎え、異なる見方や考え方がぶつかり合うことで生まれる相互理解と発見は、新体制に活気をもたらしています。



# 特集

## 世界の 眼科医療への貢献 Report 3

# 地域事情に応じた医療貢献 地域ごとに異なる “真の顧客ニーズ”に 応えるために

医療制度の違いはもちろん、その地の風土、生活様式や文化、価値観などにより、人々が医療に求めるものは地域ごとに異なります。参天製薬は、事業のグローバル化を進める上で地域により異なる真の顧客ニーズに応えることを重視し、その地に必要とされる医療への貢献を目指しています。医療環境の異なるアジアと欧州を例に、実状を報告します。

### 現地の医療関係者と心をついに アジアの眼科医療向上に尽くし続けたい

当社は120余年という歴史の中で、アジアの一部の国々と長い交流を重ねてきました。例えばベトナムのすみずみまで当社の社名は広く知られています。現地眼科医療の核となる熱心な医師と共に歩んできた国では特に認知度が高く、欧米のメーカーに少しでも遅れをとると、多くの医師から親近感と期待をこめた叱咤激励をいただきます。こうしたつながりを実感する度に、より大きな貢献を目指そうという思いが強くなります。どの国でもインナープレイヤーとしての意識を持って一層地域に密着し、現地の医療関係者と心をついに、眼科医療の向上や、多様化するニーズへの対応を図っていきます。



中国では約200人のMR体制を構築  
浙江省寧波市における情報提供活動

アジア事業部長  
井上 雅博



## アジア

近代化が進む一方で医療格差が課題となるアジア

### より高水準な眼科医療を一人でも多くの人々が 享受できる医療環境づくりへの貢献を目指して

新興国では、GDPが1万ドルを超える辺りで医療の質が変わります。アジアの国々の多くは今、この境に近づき、富裕層は先進的な医療の恩恵に浴し始めています。しかし、一般には未だ医療へのアクセスすら簡単ではありません。空白に近い医療環境の中に最先端の医療が偏在する「まだら模様」。それが、今のアジアの典型的な状況となっています。

眼科医療においても、例えば中国では、日本なら開業医で受けられる手術も都市部の病院でしか行っていません。東南アジアなどでは治療が受けられないための失明が、深刻な問題となっています。一方、韓国、香港、シンガポールなどでは富裕層などを対象に、日本以上ともいえるほど眼科医療の水準が高まっており、医療格差が広がっています。

今後は、より高水準の医療を全域に浸透させて「医療環境のまだら模様」を解消することが大きな課題です。当社はアジアの医療用眼科薬メーカーとして、欧米メーカーに先んじて学術支援を行うなど、地道に医療環境の向上を支援してきました。今後も、隣国サポーターとしての期待に応え、幅広い既存薬から世界最先端の新薬まで、真の顧客ニーズに応じた製品と情報の提供を拡大していきます。



学会会場での情報提供活動  
第27回アジア太平洋眼科学会議(釜山)



一貫製造を開始した中国蘇州工場



海外学会での積極的な展示活動  
第33回国際眼科学会(アブダビ)



参天の一員となったノバガリ社の皆さん

## 国ごとの制度の壁を越えて進む 医療先進地域・欧州の高度なニーズへの対応

欧州の医療用眼科薬市場の大きな特性は、多様性に富んでいることです。医療保険制度や薬事制度が国ごとに異なり、薬価も公定薬価あり自由薬価あり。眼科疾患領域の構成比もさまざまです。当然、医療用眼科薬の提供には、国ごとに違う対応が求められます。しかし、国によっていくらか差はあるものの基本的には医療の先進地域であり、角膜疾患や緑内障、網膜疾患など、先端的な領域での新薬に対するニーズが、今後ますます高まってくることが予想されます。

当社は、世界で3品目しか認められていない医療用ドライアイ治療薬の2品目を有するメーカーとして、今後、欧州におけるドライアイ治療の確立と向上に貢献していこうとしています。2012年初頭には、高い可能性を秘めたフランスの眼科薬メーカー、ノバガリ社を100%子会社としました。独自の製剤技術であるノバゾーブ技術<sup>※1</sup>を持ち、世界で4番目、欧州では初となる医療用ドライアイ治療薬を開発中の同社をグループの一員として迎え入れたことは大きな一歩です。ヨーロッパ発の技術を使って、世界中の患者さんに、よりバリエーションに富んだより使いやすい製品を提供し、眼科医療への貢献度を高めていくことが、今後の課題となります。

今なお歴史的建造物が多く残る医療先進国ドイツ



欧州

※1: 乳化点眼剤に正電荷を付与する独自技術。薬が目の表面に素早く広がり、長く留まる特長がある。

※2: 一つの化合物を医療ニーズに合わせ、用法・用量・剤形など様々な工夫を加えることで、長期にわたり製品価値を高めること。

## 欧州を基点に挑戦を重ね、 世界中のドライアイの患者さんに貢献を

欧州ではかつて、現地ニーズに応じたライフサイクルマネジメント<sup>※2</sup>によって防腐剤フリーの緑内障・高眼圧治療剤タフルプロストを生み出し、提携による販売も組み合わせることで、求められていた製品を広く欧州一円に届けることができました。今回、新たにノバガリ社を買収し、欧州発の製品や製剤技術によって世界中の顧客のQOL向上に貢献していく道も開けました。今後は、日本で培ってきた参天のノウハウを活かし、リージョナルとグローバルの両面を併せ持つきめ細かい貢献を成し遂げていきたい。特にドライアイ領域では「グローバル・カテゴリーリーダー」となって、世界中の患者さんに貢献していきたいと願っています。



ノバガリ社は独自の製剤技術を有する

常務執行役員  
欧州事業統括  
兼 サンテン・ホールディングス・  
イーユー・ピー・ワイ社長  
佐藤 正道

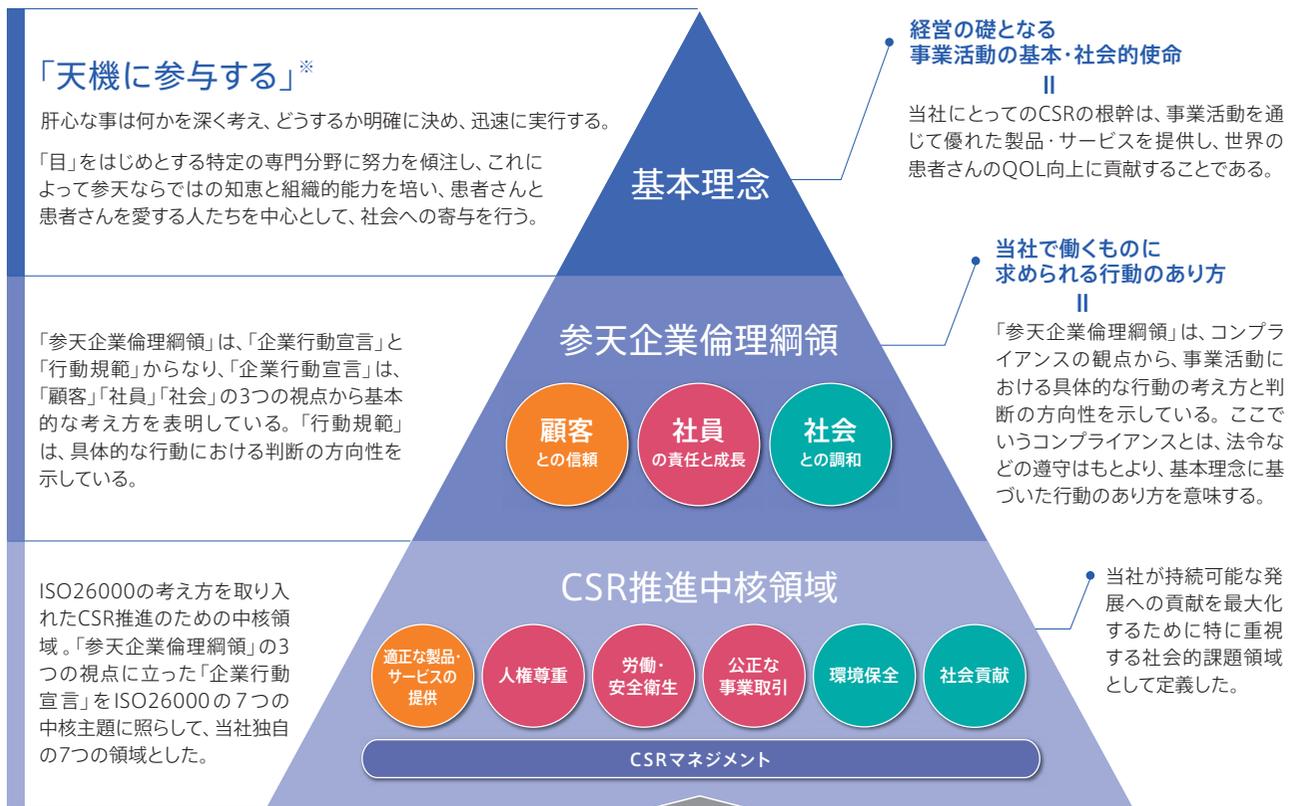


# 参天製薬グループのCSR (企業の社会的責任)

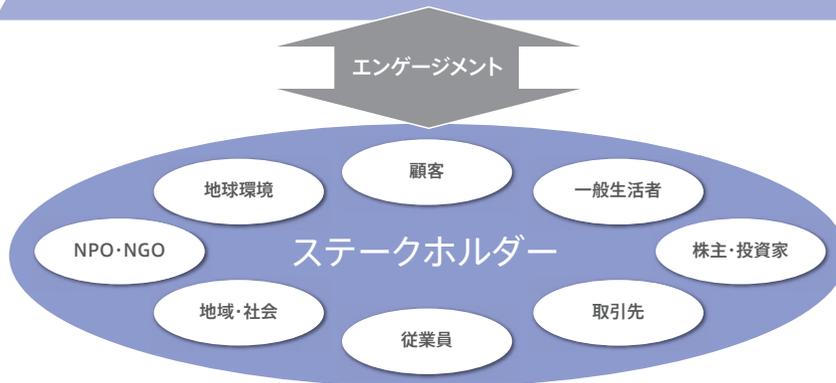
参天製薬グループは「天機に参与する」という基本理念に基づいた事業活動を通じて、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL向上に貢献し続けます。

1890年の創業以来、120余年にわたる歴史を通じて当社が大切にしてきたこと。それは、当社の基本理念「天機に参与する」の中で表現されています。いかなる時代にあっても「創造と革新」を追求し、常に患者さんと患者さん愛する人たちを中心として社会に貢献していくこと。そこには、当社の社会的責任の本質が謳われています。当社は事業活動を通じた社会への貢献をCSRの根幹に据え、グループ全社員がCSRに対する意識を深めていくことを経営の重要課題と位置づけています。その一環として、当社で働くものに求められる行動のあり方を示した「参天企業倫理綱領」を制定。高い倫理観と誠実な行動規範の浸透を図っています。また2011年からは、社会的責任に関する国際規格ISO26000の考え方を取り入れ、当社独自の「CSR推進中核領域」としました。今後はこの「CSR推進中核領域」に沿って、CSR活動の一層の充実を目指してPDCAサイクルを機能させていきます。

参天製薬グループCSR推進概念図



※「天機に参与する」  
中国の古典「中庸」の一部を参天製薬が独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。

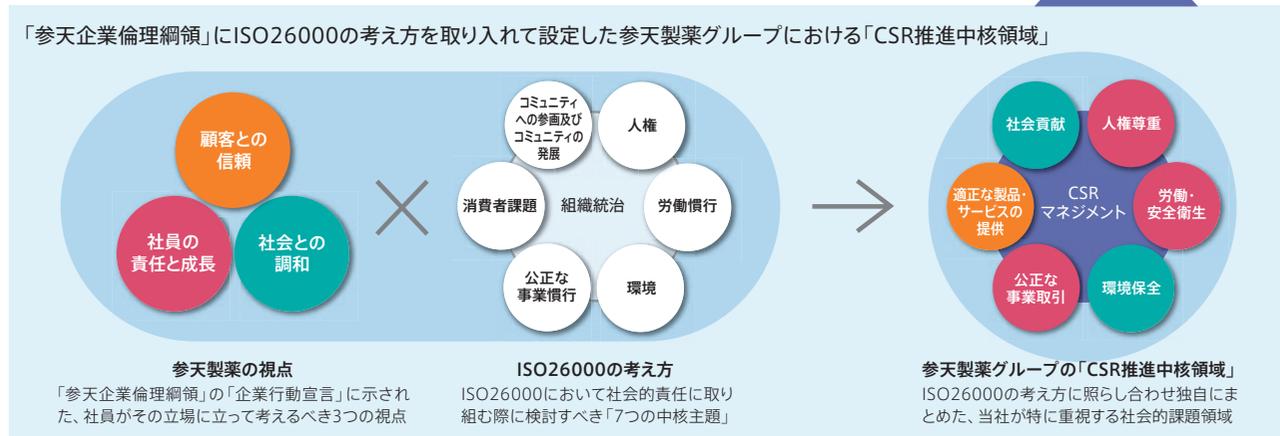


## 社会的責任に関する国際規格ISO26000を手引とした参天製薬グループCSR体系の再構築

事業活動における具体的な行動を規範として示した「参天企業倫理綱領」は、「企業行動宣言」と「行動規範」から成り、1999年に制定以来、社会の変化などに応じて改定を重ね、2010年には「企業行動宣言」の内容を「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」の3つの視点から再整備しました。翌2011年4月にはCSR統括部を設立し、ISO26000の考え方を取り入れたCSR体系の再構築に着手しました。この取り組みは今後数年間をかけて継続し、CSRマネジメントシステムの充実を図りながら、参天製薬グループ全社員の社会的責任に対する意識向上を図っていきます。

今年度は、「企業倫理綱領」の「顧客との信頼」「社員の責任と成長」「社会との調和」の3つの視点に対応した実践テーマに沿ってCSR活動の総括を行い、以降の実践報告ページでレポートしています。また、ISO26000の考え方を取り入れたCSR推進のための「CSR推進中核領域」に対しても実践テーマとの関連付けを行っています。

企業行動宣言における3つの視点	企業行動宣言	企業行動宣言に基づくCSR推進のための実践テーマ	CSRマネジメント	
顧客との信頼	1. わたしたちは、顧客の安心できる、有効性・安全性に優れた高品質の医薬品等を効率的かつ安定的に提供します。	1 高品質の医薬品等の提供	適正な製品・サービスの提供	P13~14
	2. わたしたちは、医薬品等の適正使用を推進するため、公正な販売・普及促進活動の中で、顧客の信頼できる、品質・有効性・安全性等の情報を的確かつ迅速に提供します。	2 的確かつ迅速な情報提供		P15~20
	3. わたしたちは、人々の健康な生活を維持・増進させるため、顧客の求める、有用で革新的な医薬品等を迅速かつ効率的に研究開発します。	3 有用で革新的な医薬品等の研究開発		
社員の責任と成長	1. わたしたちは、自己研鑽に努め、期待される役割を果たすとともに、個人の人権・人格および個性を尊重し、自律とゆとりと豊かさのある、安全で快適な職場環境をつくります。	1 個人への尊重と快適な職場環境の実現	人権尊重	P21
	2. わたしたちは、会社の資産・資金および情報の価値を十分認識して、ルールに従い保護・管理し、有効に活用します。	2 経営資源の保護と活用	労働・安全衛生	P22~23
	3. わたしたちは、利害関係者と相互理解を図り、社会の信頼が得られる、公正かつ透明で自由な関係を保ちます。	3 利害関係者との公正かつ透明な関係の維持	公正な事業取引	P24
社会との調和	1. わたしたちは、自然を保護し、地球環境保全に積極的に取り組みます。	1 環境保全	環境保全	P25~30
	2. わたしたちは、良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行い、社会と対話し共生します。	2 社会貢献	社会貢献	P31~34



CSRマネジメント

顧客との信頼

適正な製品・サービスの提供

人権尊重

労働・安全衛生

社員の責任と成長

公正な事業取引

環境保全

社会との調和

社会貢献

# CSRマネジメント

## コーポレート・ガバナンス

### 基本的な考え方

参天製薬グループは、社名の由来でもある「天機に参与する」という基本理念のもと、顧客・社会／株主／従業員を重んじ、世界の人々の「目と健康」に貢献する企業であることを常に目指すとともに、法令、社会のルールおよびその精神を遵守し、企業人・社会人としてより高い倫理観を持って行動し、企業価値最大化を目指しています。

そのためには、コーポレート・ガバナンスの充実・強化が不可欠であると認識し、企業統治システムを構築することで、経営の透明性ならびに客観性を確保しながら業績の向上に取り組んでいます。

具体的には、複数名の社外取締役を選任することによる経営監視機能の強化、社内・社外取締役で構成される任意の委員会である「戦略審議委員会」、「指名委員会」、「幹部報酬委員会」の設置、マネジメントの強化と業務執行のスピードの向上を図るための執行役員制度の採用などを既に実施しており、今後もコーポレート・ガバナンスを一層強化し、経営の透明性・客観性を向上していきます。

なお、参天製薬グループでは、監査役制度を採用しており、監査役は内部監査室との連携を含め、監査の実効性・効率性を高めています。

### コーポレート・ガバナンス体制の概要

当社では、取締役会において、法令に定めのある事項に加え、参天製薬グループの経営方針、経営戦略、事業計画、重要な財産の取得や処分、重要な組織・人事に関する意思決定、当社および子会社における業務執行の監督などを行っています。原則として月1回開催され、2012年7月現在は社内取締役3名、社外取締役3名の合計6名で構成されています。また、マネジメントの一層の強化と戦略意思決定の質・スピードの向上を図るため、執行役員制

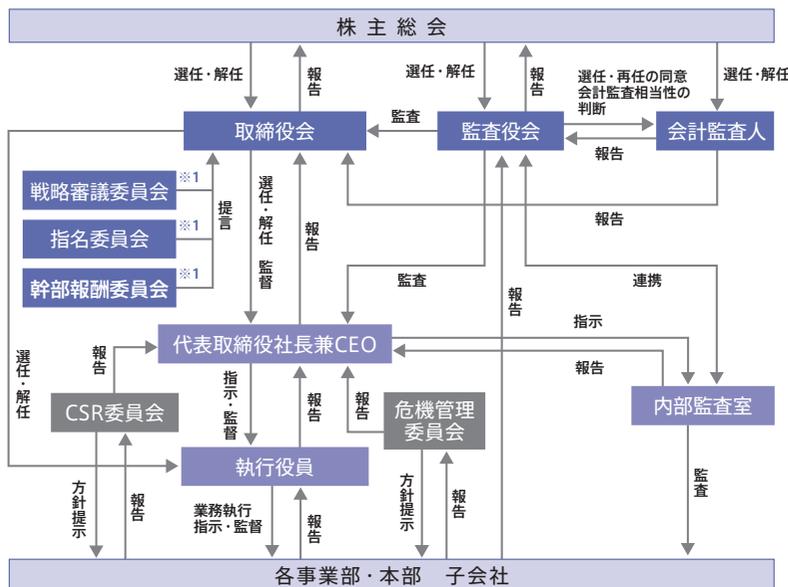
※1  
**戦略審議委員会**  
**指名委員会**  
**幹部報酬委員会**  
 委員会設置会社における委員会とは異なる

度を導入しています。執行役員は2012年7月現在は取締役による兼務を除き7名です。

さらに、コーポレート・ガバナンスを一層強化し、経営の透明性・客観性を向上させるため、審議機関として社内・社外取締役で構成される、「戦略審議委員会」、「指名委員会」、「幹部報酬委員会」の3委員会を設置しています。なお、これらの委員会は、委員会設置会社における委員会とは異なります。

監査については、当社は監査役制度を採用し、監査役会は、社外監査役3名を含めた4名で構成されています。監査役は、監査方針や監査計画を策定し、取締役会やその他の重要会議に出席するほか、本社、主要事業所、子会社における業務および財産の状況調査などを通じて、取締役の職務執行を監査しています。

コーポレート・ガバナンス体制



### 内部監査体制の概要

参天製薬グループの内部統制システムが、効率的に機能しているかを検証するための部署として、各業務執行部門から独立した内部監査室を設けています。なお、内部監査室の人員は室長を含め4名です。

また、財務報告の信頼性に係る内部統制については、各部門ならびに主要子会社がその適正性に関して自己点検を行い、内部監査室が自己点検の妥当性を検証する体制を整備しています。

# CSRマネジメント

## 基本的な考え方

参天製薬グループは、「天機に参加する」という基本理念に基づいた事業活動を通じて、優れた製品・サービスを提供することにより、世界の患者さんのQOL※向上に貢献し続けます。

※QOL (Quality of Life) : 生活の質

## 社会的責任を果たすための 基盤づくりを推進

当社が社会的責任を果たすためには、基本理念と「参天企業倫理綱領」(以下「倫理綱領」)を行動規範として浸透させ、社員一人ひとりの基本理念に基づいた行動が必要となります。2011年4月に基本理念の浸透主管である人事部門とCSR部門を本部として統合し、CSR統括部を設立しました。

CSR統括部の役割の一つめは、「倫理綱領」の社員への浸透・定着を図ること。二つめは、「倫理綱領」に基づく事業活動と個人行動が確実に実践されるためのCSRマネジメントシステム、具体的には、各事業部・本部のCSR領域におけるPDCAサイクル※2が回る仕組みの構築を支援します。そして三つめは、危機に対す

る影響を最小化するための危機管理機能の強化です。これらの役割に応じた施策を着実に実行することで、製品、サービスの提供を阻害するリスクや顕在化した危機を最小化することにつながり、社会的責任を果たし続けることが可能となります。

詳細な活動への落とし込みについては、社会的責任に関する国際ガイダンス規格「ISO 26000」を参考に、基本理念・「倫理綱領」を上位概念としたCSR推進フレームワークを作成し、当社独自の活動内容や目標を設定します。また、当社のCSRの推進方法を検証するために、有識者の皆様との直接的な対話によるステークホルダーダイアログも実施しました。その中で多くのご指摘をいただきましたので、それを踏まえて次年度以降の課題とします。(詳細はP.35-36参照)

## コンプライアンス推進体制

当社は、健全な事業活動を通じて社会との信頼関係を深めるため、コンプライアンス推進体制を整備しています。具体的には、推進専門部署を設けるとともに、CSR委員会の下、コンプライアンス委員会を設置し、各部門長から任命された委員で構成します。委員会では、活動の方針や実行計画、コンプライアンス違反への対応策および再発防止策などを策定し、実施しています。

また、社員がコンプライアンス上疑義のある行為や質問について相談・通報しやすいよう、社内窓口を設置するとともに、会社とは独立した立場の弁護士による社外ヘルプラインを設け、窓口の電話番号やメールアドレスなどを掲載した「コンプライアンスカード」を社員へ配布しています。なお、公益通報者保護法に基づき、社内規程を定め、相談・通報者のプライバシーは全面的に保護され、不利益を被らないよう万全の配慮をしています※3。

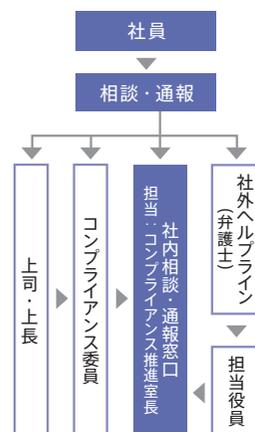
## リスクマネジメント推進体制

当社では、事業活動に影響を及ぼすリスクや危機に対処するための危機管理体制を整備しています。災害などが発生した際、医薬品は患者さんや被災地で医療活動をされる医療関係者の方々にとって必要とされる物資であり、医薬品の供給を途切れさせてはならないと考えています。そのために、平時から事業継続上のリスクを分析し、優先的・重点的に対応をとるべき領域を明確にし、具体的な対策を立案、いざとなった場合に当たり前のこととして組織的に対応できるようなBCM(事業継続マネジメント)※4の取り組みを進めています。

また、万が一、危機が発生した際は、「危機評価委員会」を開催し、その影響の度合いによって、代表取締役を委員長とする「危機対策委員会」を立ち上げます。「危機管理基本マニュアル」に基づいて損失の最小化および迅速な復旧を図るとともに、再発防止策を講じる体制になっています。

※2  
**PDCAサイクル**  
事業活動を円滑に進める手法の一つ。P(Plan)・D(Do)・C(Check)・A(Action)という事業活動の「計画」「実施」「監視」「改善」のサイクルを表す

※3  
**相談・通報の流れ**



※4  
**BCM(事業継続マネジメント)**  
自然災害や事故、感染症、システム障害などの不測の事態が発生しても、事業の継続あるいは早期復旧を図るための経営上の管理手法

# 顧客との信頼 〈適正な製品・サービスの提供〉

<b>企業行動宣言</b>	<b>実践テーマ</b> ■ 2011年度の主な取り組み
わたしたちは、顧客の安心できる、有効性・安全性に優れた高品質の医薬品等を効率的かつ安定的に提供します。	<b>1 高品質の医薬品等の提供</b> ■ 製品ライフサイクルにおける信頼性の確保 ■ グローバルな信頼性保証体制の確立 ■ 世界5工場での品質管理の徹底
わたしたちは、医薬品等の適正使用を推進するため、公正な販売・普及促進活動の中で、顧客の信頼できる、品質・有効性・安全性等の情報を的確かつ迅速に提供します。	<b>2 的確かつ迅速な情報提供</b> ■ 医療現場への情報提供 ■ 講演会、研究会での情報提供 ■ ホームページでの情報提供
わたしたちは、人々の健康な生活を維持・増進させるため、顧客の求める、有用で革新的な医薬品等を迅速かつ効率的に研究開発します。	<b>3 有用で革新的な医薬品等の研究開発</b> ■ 米国を基点としたグローバル臨床開発体制への移行 ■ ネットワーク型創薬を活用した新薬の研究開発の効率化 ■ 倫理に基づく研究・開発

## 1 高品質の医薬品等の提供

### 製品ライフサイクルにおける信頼性の確保

参天製薬では「品質基本方針」に基づき、非臨床試験や臨床試験、技術移管、製造、物流、市場における製品のライフサイクル全般において信頼性の確保に努めています。

### 品質基本方針

参天グループは適用される法規、規格、基準を満足し、最新の科学技術を応用して、消費者に信頼されるより高い品質を確保した医薬品・医療機器とサービスを提供し、社会に貢献することを品質基本方針とする。

※1  
**GLP (Good Laboratory Practice)**  
医薬品の安全性に関する非臨床試験の実施の基準

※2  
**GCP (Good Clinical Practice)**  
医薬品の臨床試験の実施の基準

※3  
**GMP (Good Manufacturing Practice)**  
医薬品および医薬部外品の製造管理および品質管理に関する基準

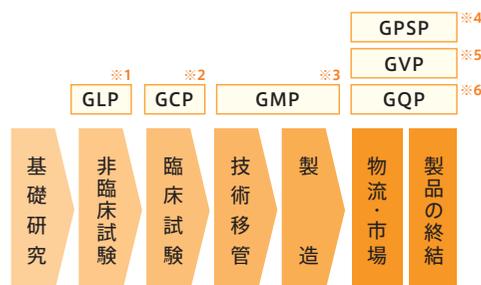
※4  
**GPSP (Good Post-marketing Study Practice)**  
医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準

※5  
**GVP (Good Vigilance Practice)**  
医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器の製造販売後安全管理の基準

※6  
**GQP (Good Quality Practice)**  
医薬品、医薬部外品、化粧品および医療機器の品質管理の基準

### グローバルな信頼性保証体制の確立

「品質基本方針」に基づくグローバルな信頼性保証体制を確立するために、随時改訂される各国・地域の規制当局の要求事項を理解し遵守することはもとより、安全で高品質の製品を患者さんにお届けし安心して使用いただく



製品のライフサイクルと主な規制

ることを最優先課題として、以下のグローバル委員会体制を構築しています。委員会での重要案件は信頼性保証本部から代表取締役へも報告され、課題を俯瞰的に把握して迅速な対応が図れるようにしています。

### グローバル品質マネジメント委員会

グローバルな品質保証・監査体制を構築しており、品質に係るプロセスや手順を継続的に改善することにより、高品質の製品を供給することに努めています。

### グローバル安全性監視委員会

グローバルな安全性監視体制を構築しており、すべての製品のベネフィット・リスクバランスを明確にし、患者さんの安全性の確保に努めています。

## 世界5工場での 品質管理の徹底

当社は年間約3億本の高品質な点眼剤を恒常的に製造・安定供給することで、疾患を持つ患者さんのQOL向上に貢献することを使命としています。大阪、能登、滋賀、タンペレ（フィンランド）、蘇州（中国）の世界5工場体制のもと、各工場の特徴に応じた機能強化により、品質管理の徹底に努めています。

### 能登工場での取り組み

1985年に操業開始した能登工場は世界最大レベルの点眼薬生産本数を誇るマザー工場として、海外にも通用するGMP基準も満たしています。能登工場の医療用点眼剤製造ラインでの品質に対する取り組みをご紹介します。

#### ● 高度に精製した水による調剤工程

調剤タンクに原料を投入し、攪拌かくはんします。点眼液の命ともいえる水（蒸留水）には、注射用水と同レベルの水を使用しています。



調剤工程



能登工場

#### ● 高い空気清浄度の充填工程

点眼剤は無菌製剤と定義されており、点眼容器への充填はクラス100<sup>※7</sup>のクリーンルームで行われます。充填エリアは汚染源となる人の立ち入りを最小限に抑えるとともに、充填機では、容器が成形されると同時に薬液を充填することで菌汚染リスクを最小限にしています。



充填工程

#### ● 品質を守り抜く検査工程

充填された容器は1本ずつ検査ラインに送られ、焼け焦げ、外装滅菌、中栓成形、開孔、重量測定、ピンホールなどの厳しい検査を経て包装工程へ送られます。



検査工程

#### ● 包装工程

点眼容器本体にシュリンクラベルを巻き、添付文書とともに箱詰めし梱包された製品は温度管理された倉庫に出荷まで保管されます。ここでも定期的に製品を抜き取り、正しく製造されているか検査を行っています。



包装工程

## Stakeholder's Voice 社員

### 各地域の製品品質をグローバルなレベルで保証する

当社では、グローバルでの各地域の品質保証・監査機能で構成する委員会が設置されています。私は、そのグローバル委員会の事務局を担当し、各地域の関連部門と連携をとりながら、グローバルなレベルで信頼性を保証する体制の構築と継続的な維持向上に努めています。「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現に向けて貢献できるよう今後も活動していきたいと思えます。



信頼性保証本部  
信頼性保証・企画推進室  
信頼性保証マネジメント  
推進担当マネージャー  
大西 裕美

### 1 高品質の医薬品等の提供 活動総括

- 安全で高品質な製品をお届けするために品質保証と安全管理からなる信頼性保証体制を構築しました。今後はこの体制の円滑な運用により、研究から始まり、臨床試験、製造、市販後と製品が普及する過程で得られる品質、安全性に関するすべての信頼性の確保に取り組みます。
- グローバル標準の品質システムおよびGMP基準であるPIC/s<sup>※8</sup>ガイドラインに国内工場を適合させる活動も開始します。

## 2 的確かつ迅速な情報提供

※1  
MR (Medical Representative)  
医薬情報担当者

※2  
iPad  
iPadは、Apple Inc.の商標です

### 医療現場への情報提供

#### 眼科医にとって有用な情報を提供

参天製薬のMR※1は、日本全国で約13,000人おられる眼科医のほとんどを個別に訪問、豊富な製品ラインナップと専門メーカーとしての幅広い医薬情報を提供し、きめ細かな活動を実施しています。さらに、2011年10月には、首都圏ならびに関西の大学病院などを専門に担当する病院統括グループを新設しました。このことにより大学病院などで行われている最新の治療や多くの疾患情報などが入手でき、全国の眼科医にとって有用な情報をより迅速に提供することが可能となりました。また、研究開発部門と連携して先生方より深いニーズを把握し、必要とされる真の情報を提供することで、当社との強固な信頼関係が構築できるようにしていきます。

#### 医師のニーズに対応した活動

当社のMRは日々の医薬情報提供活動の中で、医療現場から多様なニーズを把握し、できる限り迅速に対応しています。その一つとして、医療機関を受診された患者さんが疾患や治療を理解できるように、冊子やDVDなど医療の現場でご活用いただけるさまざまなツールを提供しています。

例えば「緑内障視野シミュレーションセット」は、自覚症状が乏しい緑内障患者さんが緑内障特有の視野異常を疑似体験することで治療の必要性を理解できることに役立ちます。この

#### 最新情報端末ツールの導入

2012年4月からタブレット型情報端末ツールであるiPad※2を導入しました。iPadには最新の添付文書や製品情報概要などのほかに、検査や手術の仕方など紙媒体では説明が難しい情報を動画として取り込むことにより、医師や薬剤師からの質問に的確かつ迅速に対応することが可能となりました。



MRの情報提供活動

ほかにも、毎日指示通りに点眼するためのチェックシート、効果的にドライアイ治療を継続するために治療経過を記録する「あなたのドライアイ日記」などがあります。リウマチ患者さん向けには、快適に暮らすための「暮らしのアドバイスノート」、関節運動をするための「ポジティブ・エクササイズ」のポスター、点眼液がうまく使えない方の点眼補助具などを提供しています。これらの情報提供を通じて、医師とその先にいる患者さんとの信頼関係を構築し、多くの患者さんの治療効果、QOLの向上に貢献しています。



患者さんを対象とした啓発ツールなど

## 講演会、研究会での情報提供

当社ではMRによる医薬情報提供活動だけでなく、学会や医師会などとの共催による講演会を数多く開催し、最新の情報をタイムリーに全国の医療関係者の皆様にお届けしています。

また、疾患や治療に関する最先端の研究者間の交流を目的として、研究会を開催しています。研究会には、国内のみならず欧米やアジアからも最先端の研究者と若手研究者が参加しています。研究会では世代を超えた研究者同士が交流することで、新しい治療や診断の開発につながると考えられます。当社はこのような貢献活動にも注力しています。



医療関係者向け情報提供ツール

## ホームページでの情報提供

当社のホームページでは、一般生活者向けに製品情報だけでなく、さまざまな情報を提供しています。眼科関連では、「ひとみすこやか.com」「HELP! ドライアイネットワーク」など目の健康や疾患関連情報を提供しています。「こちらはお客様相談室です」では、お客様から寄せられたご意見やお問い合わせをもとに目薬の情報をご紹介しています。リウマチ関連では、「リウマチー暮らしのアドバイス」を提供し、保険制度や日常での疾患との上手な付き合い方などの情報を盛り込んでいます。



- Web 「ひとみすこやか.com」  
<http://hitomi-sukoyaka.com/>
- Web 「HELP! ドライアイネットワーク」  
<http://www.help-dryeye.com/>
- Web 「こちらはお客様相談室です」  
<http://www.santen.co.jp/soudan/index.html>
- Web 「リウマチー暮らしのアドバイス」  
<http://www.santen.co.jp/ra/advice/top.shtml>

## Stakeholder's Voice 社員

### 社内の連携強化と情報提供ツールの効果的な活用

私たちの役割の一つである研究部門と連携した活動では、医師の研究ニーズを深掘りし、必要とされる真の情報を提供することで、医師とのより強固な関係構築が実現し、さらに会社の将来の財産になると考え活動しています。

iPad導入により、医師からの質問にその場で検索や問い合わせができ、迅速な対応が行えるようになりました。自己学習のツールとしても有効で、空き時間を利用して効率的に情報の質を高めています。



病院統括グループ  
関西病院統括チーム  
長谷川 成男

### 2 的確かつ迅速な情報提供活動総括

- 医療現場のニーズに対応した、より有用で質の高い情報を迅速に提供するための活動をさらに進化させます。
- 患者さんや一般生活者の方々に対し、疾患や医薬品の情報をホームページなどの多様な媒体により提供できるように拡充します。
- 透明かつ公正な活動を行うため、公正競争規約やプロモーションコードの遵守をさらに徹底します。

### 3 有用で革新的な医薬品等の研究開発

#### 米国を基点とした グローバル臨床開発体制への移行

新薬の研究開発は、下図のように基礎研究や各種試験、承認申請と審査を経て、国による承認を得られてはじめて患者さんのもとへ届けられます。この基礎研究から新薬として認め

新薬の研究開発について



られるまでには、一般的に9~17年という長い年月が必要になります。

臨床試験は3段階に分かれ、ヒトを対象とした有効性と安全性の試験が行われます。当社は、グローバルでの臨床開発の迅速化を進めることが極めて重要と考え、グローバルの臨床開発の基点を日本から米国へ移行しました。

米国においては、医療ニーズに対応できる医薬品であることを顧客に理解してもらい、適正な使用に繋げるために、医薬品の上市前にドクターと共に種々の試験を検討・実施し、論文・学会発表を行っています。今後は、研究開発の初期の段階から現場の医療ニーズを把握し、どのような製品が必要とされているかということを強く意識して、医薬品の研究開発を進めていきます。

#### ネットワーク型創薬を活用した 新薬の研究開発の効率化

いち早く新薬を創出するために、基礎研究・非臨床試験の期間短縮も重要と考えます。

新薬の研究開発には多岐にわたる専門技術の統合が必要です。当社では新薬パイプラインの充実と効率的な研究開発のために、自社の研究開発体制を強化する一方、外部資源を活用した研究開発(ネットワーク型創薬)にも力を注いでいます。ネットワーク型創薬では、当社が培ってきた知識や技術を、他の製薬企業、大学や研究所、ベンチャー企業などの研究機関が有する最先端技術と連動させて創薬を行います。

例えば、宇部興産の保有するプロスタグランジンEP2作動薬について、全世界で眼科疾患治療剤(開発コード: DE-117)として開発する契約を締結するなど、下表のような医療用眼科薬をネットワーク型創薬の活用により見出し、現在、臨床開発を進めています。当社は、「角膜疾患」「緑内障」「網膜疾患」の3つの領域を中心として、ネットワーク型創薬を活用することにより、これまで培ってきた眼科研究の質・量・スピードと効率をさらに高めることができます。質の高い有用な医薬品を患者さんに1日も早くお届けし患者さんの治療ニーズに応えるとともに、患者さんのQOL向上に一層貢献していきます。

「ネットワーク型創薬」を活用した新薬の研究開発(臨床開発段階の医療用眼科薬)

開発コード	一般名	効能・効果	導入等	地域	フェーズ				
					1	2	3	申請	承認
DE-085	タフルプロスト	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	■	■	■	■	■
				欧州	■	■	■	■	■
				米国	■	■	■	■	■
				ラテンアメリカ	■	■	■	■	■
				アジア	■	■	■	■	■
DE-102	ベタメタゾン	糖尿病および網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫	オークウッドと共同開発	日本	■	■	■	■	■
DE-111	タフルプロスト／	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	■	■	■	■	■
	チモロールマレイン酸塩	プロスタグランジンF2α誘導体およびβ遮断剤の配合剤		共同開発	欧州	■	■	■	■
DE-117	未定	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	■	■	■	■	■

## 倫理に基づく研究・開発

### 非臨床試験時における 血液や体組織提供者に対して

血液や体組織などのヒト生体材料を用いた非臨床試験をする際に、提供者のプライバシー保護など倫理面での適切性および実施の妥当性など、科学面での適切性について審議するための諮問機関として「研究倫理委員会」を設けています。「研究倫理委員会」は、役員を委員長に、研究部門および研究部門以外から選任した委員と社外の委員で構成しています。

### 動物実験における倫理的配慮

医薬品の研究開発には、薬の安全性や有効性を確認するために、動物を用いた実験が必要となります。当社では、動物の生命を尊び、不必要な苦痛を与えないという考えのもと、実験の必要性を「動物実験委員会」で審査し、研究所の責任者が承認した実験のみが実施可能となるよう制度化しています。研究者の一人ひとりが動物実験における倫理の原則を理解し、動物を用いた実験は必要最小限にとどめるとともに、動物福祉の観点に最大限の配慮をして動物実験の計画立案および実施をしています。このことは実験の科学性と信頼性を高める上でも重要と考えています。

また、「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」および「厚生労働省の所管する

実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針」などを踏まえ、「動物実験委員会」ですべての試験について倫理的・科学的に審査するとともに、実施状況の自己点検・評価を行い、動物実験が常に適正に実施されているかどうかを確認しています。

### 動物福祉の向上

動物の飼育環境を整備するとともに、社員が法律や動物の飼育状況、社会情勢などを常時把握できるように社内情報網を整備し、右記のような実験動物に対する福祉の意識向上を図っています。

### 治験時における被験者に対して

医薬品、医療機器を製造販売するためには、厚生労働省の承認が必要です。承認を得るためには、通常健康な方で安全性を確かめた後、患者さんで効果と安全性を確認する必要があります。また、医療機器の場合も患者さんで効果と安全性を確かめることが要求される場合があります。これらの試験を「治験」と呼びますが、当社では、その実施に関して被験者の人権を尊重し、安全性確保に留意し、かつ科学的厳正さを持って取り組んでいます。

また、被験者の不利益とならないよう倫理的側面から慎重に審査することが重要と考え、「社内治験倫理審査委員会」を設けています。委員には治験実施に関連しない部門から医師、薬剤師のほかさまざまな分野の有識者を選任しています。

### 実験動物に対する福祉の 意識向上への取り組み

- 動物の飼育を専門家に任せることで飼育環境の向上を図る
- 実験動物の感染症の発生防止に努める
- 3R<sup>※</sup>の原則にさらに〔Responsibility(実験者の責任)〕を加えた4Rを実践
- 動物の取り扱いに関する教育・研修
- 動物福祉の専門家の意見を反映

#### ※3R

Reduction (数の削減)、  
Replacement  
(代替法の適用と開発)、  
Refinement (苦痛の削減)

## Stakeholder's Voice 社員

### 患者さんが求める薬を早期に創り上げるために

私は、開発中の緑内障治療薬DE-117とタフルプロスト関連開発品について、パートナーである宇部興産様や旭硝子様との協働のもと、薬剤が患者さんのQOL向上に寄与するものとして上市されるように、関連メンバーと共に開発を滞りなく進める役割を担っています。患者さんの信頼・要求に応える薬剤を創り上げる、それが私たちの使命です。



研究開発本部  
サイエンティフィック  
アフェアーズ統括部  
開発プロジェクト室  
プログラムリーダー  
小谷 敬子

### 3 有用で革新的な医薬品等の研究開発 活動総括

- 医療ニーズに対応する医薬品の迅速な創出のため米国に基点を移しました。今後はグローバル臨床開発体制の強化により地域ごとの製品ラインナップを拡充できるように取り組みます。
- 動物実験の科学性、信頼性、動物福祉のさらなる向上のために、外部評価機関による「動物実験実施施設認証」の取得に取り組みます。

# 社員の責任と成長 〈人権尊重／労働・安全衛生／公正な事業取引〉

## 企業行動宣言

### 実践テーマ

■ 2011年度の主な取り組み

わたしたちは、自己研鑽に努め、期待される役割を果たすとともに、個人の人権・人格および個性を尊重し、自律とゆとりと豊かさのある、安全で快適な職場環境をつくります。

### 1 個人の尊重と快適な職場環境の実現

- 人権啓発の推進
- 労働安全衛生の推進
- 障がい者が働きやすい職場の確立と自立の支援
- 社員の健康づくりを支援
- ワーク・ライフ・バランスの整備

わたしたちは、会社の資産・資金および情報の価値を十分認識して、ルールに従い保護・管理し、有効に活用します。

### 2 経営資源の保護と活用

- 内部統制システムの運用と改善
- 情報セキュリティ対策の見直し
- 個人情報保護の徹底

わたしたちは、利害関係者と相互理解を図り、社会の信頼が得られる、公正かつ透明で自由な関係を保ちます。

### 3 利害関係者との公正かつ透明な関係の維持

- 医療関係者との適切な関係維持と透明性の向上
- 取引先との健全かつ発展的な関係の構築
- 株主・投資家様への情報開示とコミュニケーションの促進

## 1 個人の尊重と快適な職場環境の実現



人権ニュース

### 人権啓発の推進

参天製薬では、基本理念に基づく「倫理綱領」において人権尊重の大切さを宣言するとともに、最近制定したCSR方針の中の人権尊重として「参天製薬は、事業を行う全ての国と地域において、人権を尊重した活動を推進します。」「参天製薬は、従業員一人ひとりが高い倫理感を持ち、お互いに敬意を払い、連帯感のある職場づくりを推進します。」と定めて、実行計画や人権問題への対応策などを策定し、人権啓発を推進しています。

具体的には、毎年行われる階層別研修や職場単位での研修の実施、人権ニュースの発行や人権標語の募集などによる啓発活動を通じて、人権尊重への理解を深めています。

2010年に実施した「人権啓発に関するアンケート」では、回答者の大多数が「人権尊重の理解は深まってきている」と回答する一方、ハラスメントに対しては「何の行動もとらなかった」という回答が少なからずありました。こうした結果を受けて、何でも気軽に話し合える風通しの良い職場環境づくりと、社員一人ひとりの意識改革を推進し、人権啓発活動の充実に継続的に取り組んでいます。



(株)クレールにおける自主勉強会

### 障がい者が働きやすい職場の確立と自立の支援

当社は、障がい者の雇用を促進するとともに、いきいきと働ける職場環境の確立に努めています。また、継続的に障がい者の能力開発と自立を支援しています。

助になればとの考えに基づき、事業所開設以来、仕事や日常生活に活かせるテーマを選んで自主勉強会を実施しています。これまでに手話や社会常識、マナーなどを学び、現在はローマ字や地理の勉強会、輪読会、計算や漢字ドリルに取り組んでいます。

また、<sup>ちょうふく</sup>盲重複障がい<sup>※1</sup>のある方々の支援施設の運動会や学園祭にボランティアとして参加し、模擬店の出店や競技者の補助などを行っています。

障がい者雇用を促進する目的で1997年に設立した子会社の株式会社クレールでは、従業員一人ひとりが社会的に自立するための一

※1 盲重複障がい  
知的障がいに加えて、視覚障がいのある方

## 労働安全衛生の推進

当社は、「労働安全衛生基本方針」および「労働安全衛生行動指針」のもと、労働安全衛生マネジメントシステムの運用などにより、安全・清潔かつ快適な職場環境の維持と社員の健康増進に取り組んでいます。

## 社員の健康づくりを支援

社員の健康のケアおよびドライアイ患者さんへの貢献を目的として、ドライアイ研究会と共同で有志社員のドライアイ検診を行いました。この社内検診の疫学データを用いて、社員への啓発を行うとともに、ドライアイ研究会よりさまざまな学会での発表を通して、眼科医や

## ワーク・ライフ・バランスの整備

社員の多様な価値感を認め合い、一人ひとりがライフステージの変化に合わせた働き方をする中で、持てる能力を最大限に発揮できるように就業環境を整備しています。これまでに育児休業制度、育児短時間勤務制度、介護休業制度などを導入し、子育てなどを積極的に支援してきました。

今後も、多様な価値観を認め合う風土の醸成と制度の充実などに努めていきます。

### 労働安全衛生基本方針

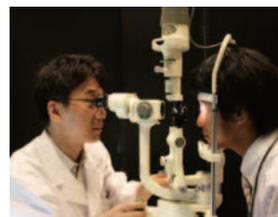
参天グループは、「安全衛生の確保は企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つである」という認識のもと、安全・清潔かつ快適な職場環境を維持し、職場で働く全ての人々の健康増進に努める。

### 労働安全衛生行動指針

1. 労働安全衛生マネジメントシステム確立と維持  
目標設定、継続的改善、監査による実効性向上
2. 労働安全衛生関連法規制等の遵守  
法規・条例・業界指針・自社自主基準の遵守
3. 災害防止及び健康づくり  
潜在的有害性の除去・軽減及び心身の健康増進
4. 啓発と自律的行動  
教育・学習・啓発による自律的活動の促進
5. 労働安全衛生方針の情報公開  
必要に応じて一般への公開

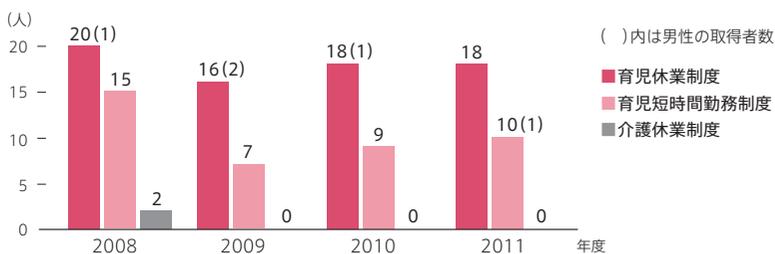
一般消費者の方々に対しても、眼科検診や早期に適切な治療を受けていただくことの重要性などについて啓発が行われました。

また、メンタルヘルス対策として、当社は厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づく対応を行っています。心身の不調者には産業医を中心とした職場復帰支援体制により、スムーズな職場復帰を支援し、再発防止に努めています。



ドライアイ検診風景

### 各種支援制度の取得実績



## Stakeholder's Voice 社員

### メンバーの自立を支援する、自主勉強会を開催

株式会社クレールでの自主勉強会は私が主に担当しています。勉強会で取り上げる内容は、仕事や日常生活で実際に役立つものになるよう心掛けています。例えば、「クリーニング品の納入先は、どの都道府県か?」「日本のどの位置にあるか?」などです。人によって覚える速さが異なるため、進み具合に合わせてグループ分けをするなどの工夫をしています。今後も勉強会の内容や進め方に工夫を重ねながら、メンバーの自立を支援したいと考えています。



株式会社クレール  
前グループ長  
金藤 仁志

### 1 個人の尊重と快適な職場環境の実現 活動総括

- 社内における人権尊重のさらなる醸成を図るとともに事業活動における関係先にも人権尊重の確認を推進します。
- 労働安全衛生マネジメントシステムを充実することで、労働安全を確保し、労働環境と労働条件を向上させ、健康増進を図ります。
- グローバル化に対応した人材の育成・配置を行い、社員が能力を最大限に発揮できる制度を整備します。

## 2 経営資源の保護と活用

### 内部統制システムの運用と改善

参天製薬では、経営資源の保護と財務報告の健全性を確保するため、手順書、牽制機能の整備をはじめとした内部統制システムをリスクアプローチに基づき構築し、内部監査室

および外部監査人による監査を実施しています。加えて、業務の有効性、効率性の維持・向上を目的とし、管理職層による担当業務および組織運営の自己評価を実施し、PDCAサイクルを回すことにより、問題がないことの確認にとどまらず、業務プロセスの継続的な改善に取り組んでいます。

#### リスクアプローチによる評価範囲の決定

ビジネスサイクル名	参天製薬			国内子会社			海外子会社		
	本社	A工場	B工場	C社	D社	.....	E社	F社	.....
① 販売管理	●			●	●		●		●
② 購買管理	●	●	●	●	●		●	●	●
③ 棚卸資産管理		●	●	●	●		●	●	●
④ 固定資産管理	●	●	●		●	●		●	●
⑤ 給与・人事管理	●				●	●	●	●	●
⑥ 財務管理	●						●	●	

(本表はイメージです)

量的リスク※1と質的リスク※2の2つの側面から、点検対象を明確化し、リスクレベルに応じて点検対象、文書化レベルを決定

リスク	文書化の種類(例)
高	フローチャート 詳細版チェックシート
中	詳細版チェックシート
低	簡易版チェックシート

#### ※1

##### 量的リスク

売上高、純利益、総資産などの基準に基づき、量的重要性のある事業拠点・ビジネスサイクルを検討します

#### ※2

##### 質的リスク

過去における問題点の発生、新規システムの導入、国ごとの特性など、質的重要性やリスクのある事業拠点・ビジネスサイクルを検討します

### 情報セキュリティ対策の見直し

情報管理体制については、社内規程を整備し、情報の保護・管理に努めてきました。情報技術の進展に伴う情報漏えいリスクの高まりへの対処と、その一方で情報をいかに活用できるかが競争優位性確保のための鍵となることを踏まえ、情報活用に向けた環境整備を目指し、「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ規程」の見直しを行いました。

### 個人情報保護の徹底

当社では、患者さんや消費者の方々、従業員の個人情報を適正に取り扱い、保護するために、「個人情報保護方針」と個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定し、役員・社員への教育研修を通じた周知徹底と、適正な運用に努めています。

Web 個人情報保護方針

<http://www.santen.co.jp/jp/contact/privacy.jsp>

## Stakeholder's Voice 社員

### 情報の積極的な活用と保護の両立を目指して

情報セキュリティでは情報を守ることに焦点があてられることが多いですが、情報の円滑な流通を阻害するものであってはいけません。

参天製薬が社会に貢献し続けていくためには、情報を積極的に活用することが不可欠であり、その上で情報を保護することができる体制、仕組みを構築しました。

従業員の情報に対する責任感、セキュリティ意識向上のため教育プログラムの拡充も図っています。



情報システム本部  
インフラシステムチーム  
チームマネージャー  
遠藤 亮太

### 2 経営資源の保護と活用 活動総括

● 経営資源の保護、活用のための仕組みが実効性と効率性の両面で有効に機能するよう、外部環境変化への対応も踏まえ、今年度は情報セキュリティについて見直しを行いました。

● 今後は、見直した情報セキュリティの仕組みの浸透・定着化、そして、内部統制システムについてリスクおよび実効性の観点から見直します。

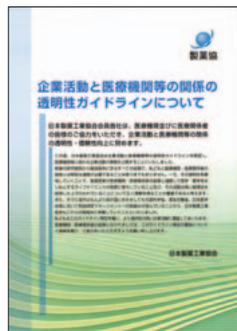
### 3 利害関係者との公正かつ透明な関係の維持

#### 医療関係者との適切な 関係維持と透明性の向上

医薬品等を適切にお使いいただくために、また、医薬品等のニーズを的確に把握するためには、医療関係者との信頼関係の構築が不可欠です。加えて当社では、医学・薬学の発展のために大学病院などに対する研究助成を積極的に行っています。このような支援活動において、医療関係者との適切な関係を維持するため、法規制、業界自主規制に従うことはもとより、社内ガイドラインを制定し、継続的な教育と点検を行っています。さらに透明性を高めるために、2012年度分より日本（業界自

主規制）において、翌年度分より米国（法律）において、医療関係者に対する寄付行為などをホームページなどで開示する予定です。

**Web** 医療機関等との関係の透明性に関する指針  
<http://www.santen.co.jp/news/20120330.pdf>



「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインについて」  
(日本製薬工業協会発行)

#### 取引先との 健全かつ発展的な関係の構築

競合見積もりを行うとともに、品質、納期、経営上の信頼性などを総合的に評価し、購買先・仕入先を決定しています。暴力団排除条例に則った対応にも取り組んでいます。また、利益相反防止のために、取引先からの利益提供の禁止について「行動規範」に規定、相互に牽制の効く体制の整備も行っています。

これらのことに加えて、購買先・仕入先は、患者さんに医薬品等をお届けする重要なパートナーであるとの考えから、「下請代金支払遅延等防止法」の遵守、提供情報の秘密保持はもとより、持続的に発展しあえる関係を目指し、相互交流や改善活動に取り組んでいます。

#### 株主・投資家様への情報開示と コミュニケーションの促進

できるだけ多くの株主様に参加いただけるように、株主総会は集中日を避けて開催しています。加えて、招集通知は法令の定めより1週間早く発送し、株主総会に参加することができない株主様のために、郵送だけでなく、インターネットでも議決権を行使できるようにしています。招集通知および決議通知は、発送直後にホームページにも掲載し、英語版の招集通知、決議通知も作成しています。

また、決算発表時には証券アナリスト・機関投資家などを対象に説明会を実施しているほか、年間を通して個別に面談も行っています。



決算説明会

#### Stakeholder's Voice 取引先

##### 相互交流を通じた発展が患者さんの貢献につながる

参天製薬様とは単なる原料のお取引に留まらず、品質向上に向けた情報交換や相互の工場訪問など現場レベルでの交流が、弊社のレベルアップやさまざまな気づきにつながっています。

この関係をさらに発展させ、高品質の原料を安定的にお届けすることで、参天製薬様が目指す患者さんと患者さんを愛する人たちを中心とした社会貢献に、微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。



キューピー株式会社  
ファインケミカル本部  
本部長  
ゆたか  
広田 巨様

#### 3 利害関係者との公正かつ透明な関係の維持 活動総括

- 医療関係者との適切な関係の維持と透明性の向上のため、情報開示に向けた準備を進め、2012年度分より開示する予定です。また、患者団体との関係についても体制整備に着手しました。
- 事業活動を通じた社会的責任を確実に果たすため、取引先を含めた法令遵守、人権尊重、環境保全などを担保するための仕組みづくりに取り組みます。

# 社会との調和 〈環境保全〉

## 企業行動宣言

わたしたちは、自然を保護し、地球環境保全に積極的に取り組めます。

## 実践テーマ

■ 2011年度の主な取り組み

### 1 環境保全

- 環境マネジメントシステムの維持運用
- 環境負荷低減の継続的实施
- サイトごとの法規制基準に基づいた管理

## 1 環境保全

### 環境マネジメントシステムの維持運用

参天製薬は、『美しい地球を次世代に引き継ぐ』をテーマに、「自然保護」と「環境保全活動」を重要な経営課題の一つとして位置づけています。生物多様性への対応をはじめ、低炭素社会や循環型社会などの実現に貢献するため、さまざまな環境課題に組織として取り組む

とともに、従業員一人ひとりの自発的活動を通じて、環境保全活動を実践しています。

また、「環境基本方針」および「環境行動指針」のもと、事業活動と一体となった環境保全体制を構築し、環境負荷低減および地球環境保全の活動を推進しています。国内すべての工場および海外子会社のサンテン・オイにおいて、環境マネジメントシステムの「ISO 14001」の認証を取得し、維持しています。

### 環境基本方針

参天グループは、社名の由来である「天機に参与する」を基本理念に、地球環境問題の国際的な取り組みと呼応し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ことに向け、グループ各企業が社会の一員であることを深く認識し、現在および将来にわたり企業活動のあらゆる面で、環境の質を保護・保存し、向上させる努力をたえず続ける。

グループ各企業および、これらの社内すべての環境マネジメント関連組織は、この「環境基本方針」を理解すると共に、これを具現化するための環境方針を定め、これを達成するため環境マネジメントシステムを実施し維持しなければならない。

### 環境行動指針

1. 環境マネジメントシステムの確立と維持  
環境目的・目標設定、継続的改善、環境監査による実効性向上
2. 環境関連法規制、条例の遵守  
法規、条例、業界指針、自社自主基準の遵守
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進  
省資源、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル率向上による環境負荷低減
4. 啓発と意識開発  
全役員・従業員に周知、社員教育・啓発、意識開発による自主的活動の促進
5. 環境方針の情報公開  
必要に応じて一般へ公開

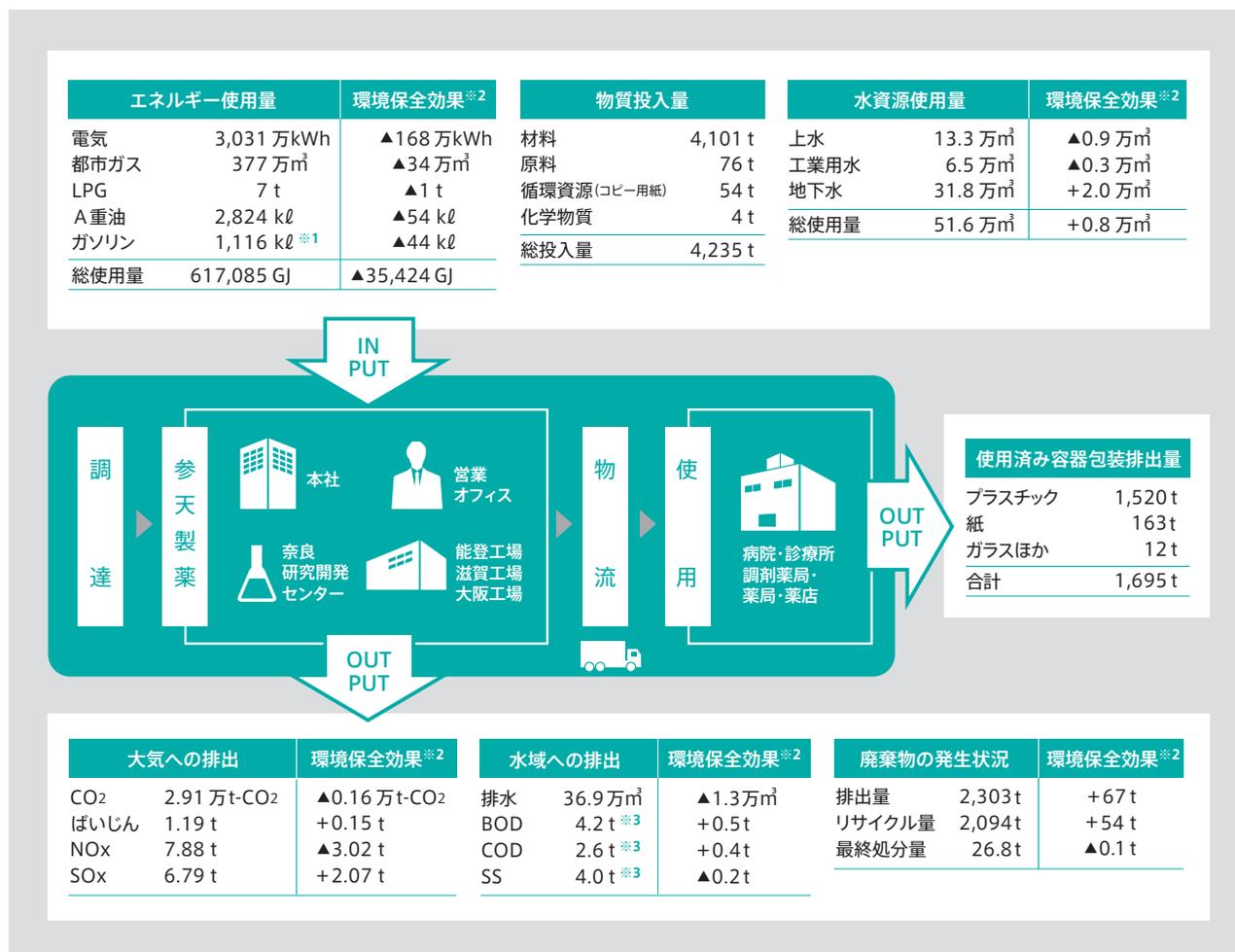
### ISO14001認証取得の状況

事業所名	主要事業	取得年月
滋賀工場	医薬品の製造、無菌・無塵作業衣のクリーニング加工	1999年12月
大阪工場	医薬品の製造及び医療機器の検査	2001年 6月
能登工場	医薬品の製造	2003年 1月
サンテン・オイ (海外子会社)	PRODUCT DEVELOPMENT, PRODUCTION, SALES AND MARKETING OF DRUGS	2008年 9月

## 環境負荷低減の継続的实施

当社は、事業活動に伴うエネルギー使用量・物質投入量・水資源使用量・大気や水域への排出量・廃棄物の発生状況などについて

環境へ及ぼす影響を把握しています。また、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に環境保全の取り組みにかかわるコスト（投資額と費用）およびその効果（経済効果と環境保全効果）を把握し、環境負荷の低減に向けた取り組みを継続的に実施しています。



### 環境保全コスト

分類	投資額(百万円)	費用額(百万円)
① 事業エリア内コスト	147.6	314.4
1. 公害防止コスト	(17.2)	(126.2)
2. 地球環境保全コスト	(130.4)	(124.0)
3. 資源循環コスト	—	(64.2)
② 上・下流コスト	—	20.3
③ 管理活動コスト	—	100.7
④ 研究開発コスト	—	—
⑤ 社会活動コスト	—	0.7
⑥ 環境損傷コスト	—	—
合計	147.6	436.1

「—」は取り組みや費用などが発生していないものです。

### 環境保全対策に伴う経済効果

指標の分類		金額(百万円)
収益	金属・プラスチックのリサイクル	62.0
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減	21.7

確実な根拠に基づいて算出される実質的效果のみを計上しています。

※1

主として営業車における使用量です

※2

前年度との単純比較により環境負荷削減量を算出しています

※3

定期検査の結果と排水量をもとに排出量を算出しています

※1  
**GMP (Good Manufacturing Practice)**  
 医薬品および医薬部外品の製造管理  
 および品質管理に関する基準

## 地球温暖化防止

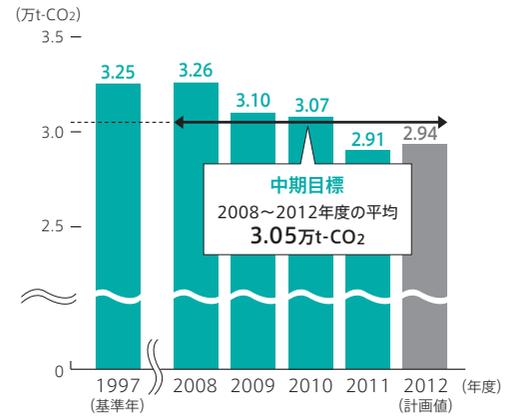
### CO<sub>2</sub>削減中期目標

【中期目標】2008～2012年度のCO<sub>2</sub>平均排出量：1997年度比6%減(3.05万t-CO<sub>2</sub>)  
 【途中経過】2008～2011年度の4カ年平均排出量：1997年度比5.2%減(3.08万t-CO<sub>2</sub>)

参天製薬は、2008～2012年度の5カ年平均CO<sub>2</sub>排出量を、GMP※1に則した当社の製品・供給体制が整った1997年度比6%減とすることを中期目標とし取り組んでいます。

2008～2011年度の平均排出量は超過していますが、燃焼系から非燃焼系へのエネルギー転換や、高効率機器への更新、太陽光発電の導入などを進めた結果、2011年度の単年度排出量は、大幅に削減できました。2012年度も継続して取り組むことにより、5カ年平均は、3.05万t-CO<sub>2</sub>以下となり中期目標を達成できる見通しです。

### CO<sub>2</sub>排出量



### 2011年度CO<sub>2</sub>排出量

【目標】CO<sub>2</sub>排出量：30,000t-CO<sub>2</sub>以下  
 【実績】29,067t-CO<sub>2</sub>



能登工場冷凍機設備

当社は、地球温暖化防止対策を環境保全活動の重要課題と位置づけ、CO<sub>2</sub>排出量削減に継続的に取り組んでいます。2011年度は、能登工場の冷凍機設備による重油から電気へのエネルギー転換、滋賀工場の高効率冷凍機への更新、奈良研究開発センターの太陽光発電設備導入のほか、全国的な電力不足への対応として、オフィスも含めたすべての事業所で節電対策を実施し、電力会社の節電要請に応えるよう取り組んだ結果、CO<sub>2</sub>排出量は、

29,067t-CO<sub>2</sub>と、前期に比べ、5.2%削減することができました。



奈良研究開発センター 太陽光発電設備

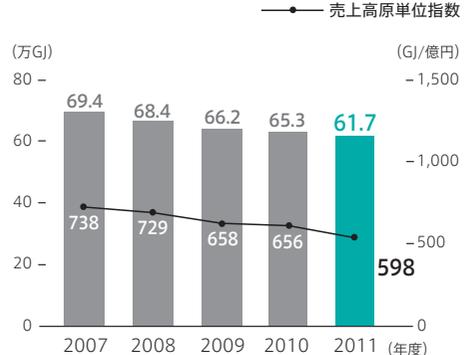


節電の啓発ポスター

### CO<sub>2</sub>排出量



### エネルギー使用量



## 廃棄物の適正管理

### 2011年度廃棄物排出量

【目標】廃棄物排出量：2,236t(前年実績)以下  
 【実績】2,303t

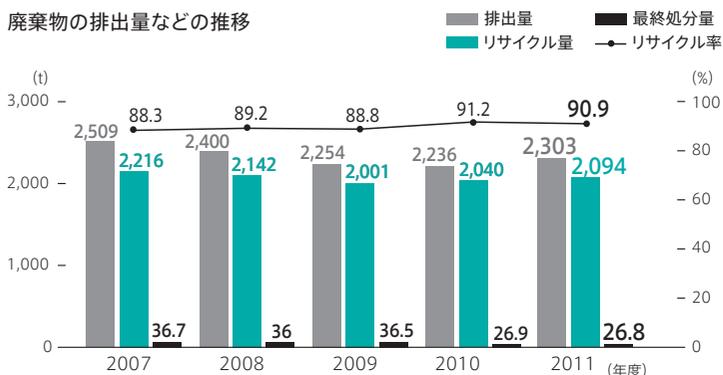
当社は、廃棄物の発生抑制、分別廃棄の徹底、廃棄プラスチックおよび廃棄製品のリサイクル化など、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進に取り組んでいます。2006年度からは当社定義のゼロエミッション※2を継続

して達成しています。また、当社の廃棄物が適正に処理されていることを確認しています。

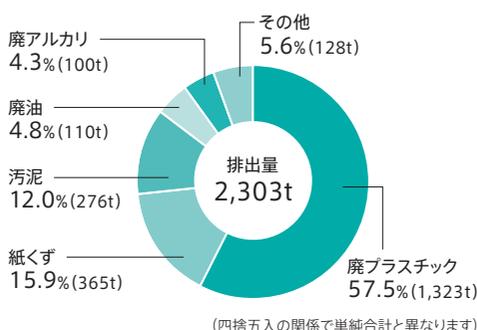
2011年度は、生産量の増加に伴い、廃棄物の排出量が前年を上回る結果となりました。

※2 当社定義のゼロエミッション  
 リサイクル不可品を除く最終処分率を1%以下にすること

廃棄物の排出量などの推移



廃棄物の内訳(2011年度)



## 化学物質管理

当社は、化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)や労働安全衛生法などに基づいて化学物質の適正管理に努めています。PRTR法の第一種指定化学物質(462物質)の中で、2011年度において年間1kg以上の取り扱いがあった物質は、19物質で、合計4,398kgありました。一事業場で年間取扱量が1t以上あったアセトニトリルは、PRTR法に基づき、大気への排出量52kgおよび事業所外への移動量が1,500kgであったことを届け出ました。

奈良研究開発センターでは、化学物質管理システムによって、出庫・保管量と保管場所を一元的に管理するとともに、化学物質の適正

な購入および適正な使用の徹底に努めています。また、化学物質の大気への排出を抑制し、環境への影響を低減するため、有機溶剤回収装置を設置するとともに点検・整備を通じて、その性能が維持されていることを確認しています。



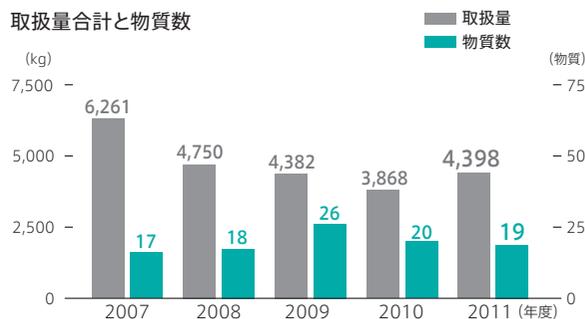
有機溶剤回収装置

2011年度に年間1kg以上の取り扱いがあった物質と取扱量

物質名	取扱量	合計
アセトニトリル	2,071	4,398
ほう素およびその化合物	705	
ノルマル-ヘキサン	615	
クロロホルム	430	
キシレン	390	
ホルムアルデヒド	76	
その他(13物質)	111	

(単位: kg)

取扱量合計と物質数



## 生物多様性の保全

参天製薬は、生物多様性への対応を、地球温暖化防止対策や廃棄物削減対策、化学物質の適正管理などと同様に、環境保全に関する国際的な重要課題と認識しています。このため生物多様性に関する国際社会や国内の動向、先進企業の取り組みに関する情報収集を継続しています。2012年1月に日本製薬工業協会が「生物多様性に関する基本理念と行動指針」を公表しました。当社では、主力の点眼剤で「水」を利用するため、森林保護とともに森林保護につながる「水源の確保」に取り組むことが生物多様性保全の柱の一つになると

考えています。今後は、水資源の保全に関して当社の対応策を検討し、実施に向けて取り組んでいきます。



豊かな自然の中の清流

## 環境に配慮した製品・サービスの開発

当社は、環境負荷の少ない製品の開発・供給を通じて社会全体の環境負荷低減に貢献したいと考えています。

一般用医薬品の製品品質およびお客様の使用性に問題が生じない範囲で、携帯袋の一部廃止や過剰包装の廃止など、容器包装の環境

負荷の低減に努めています。また、環境面に配慮して石油系プラスチックに代わり生分解性プラスチックや植物由来プラスチックの利用・活用が進んでいます。今のところ当社点眼容器の材質として直ちに使用可能と思われるプラスチックは確認できていませんが、情報収集につきましては継続します。また、グローバル化の進展に伴い、欧米で主力となっている軽量化した段ボールへの変更が進んでいます。当社においても、段ボール原紙の削減、輸送効率の向上およびCO<sub>2</sub>排出の削減につながると推定しており、軽量化に向けた物流段ボールの仕様変更に取り組んでいきます。

このほか、製品が荷崩れしないようにまとめるフィルムの厚みを薄くすることで使用時の廃棄物削減や、段ボール封函用のテープを無地に変更することによる印刷インクの削減、廃棄焼却時の環境負荷低減なども図っています。



携帯袋を添付していない製品例

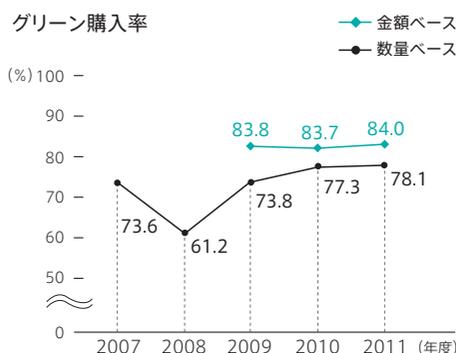
## グリーン調達・購入

当社は、製造に必要な各種資材の調達に関する考え方をまとめた「グリーン調達ガイドライン」を作成し、調達先の理解と協力を得ながら環境に配慮した製品・原材料の調達に努めています。

また、環境意識の啓発・醸成を図る取り組みとして、環境にやさしい事務用品の購入を実施しています。

2011年度のグリーン購入率は、数量ベースで78.1%、金額ベースで84.0%となり、ともに2010年度実績を上回り、活動が定着していることを確認しました。今後も継続して、資

源の有効利用や環境負荷低減に貢献できるよう、環境に配慮した製品や商品の調達・購入に努めていきます。



## サイトごとの法規制基準に 基づいた管理

当社では、工場や研究所などのサイトごとに  
関連する法令や条例の規制基準に基づき、大

気汚染、水質汚濁、騒音、振動など、多項目に  
わたって定期的に測定・分析し、適切に管理・  
把握しています。

		本社地区		能登工場		滋賀工場		奈良研究開発センター	
		所在地 大阪市東淀川区 下新庄 生産品目 眼軟膏 従業員数 約840名		所在地 石川県羽咋郡 宝達志水町敷波 生産品目 医療用点眼剤・ 一般用点眼剤 従業員数 約300名		所在地 滋賀県犬上郡多賀町 大字四手字諏訪 生産品目 医療用点眼剤 従業員数 約130名		所在地 奈良県生駒市高山町 研究内容 眼科とリウマチ疾患 領域の創薬および 研究開発 従業員数 約240名	
項目		基準値※1	測定値	基準値※3	測定値	基準値※4	測定値	基準値※5	測定値
大気	ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )	0.05	<0.0013	0.3	0.01	0.2	0.02	0.10	0.001
	NOx (ppm)	150	22	150	49	180	33	150	33
	SOx K値 (Nm <sup>3</sup> /h)	測定対象外		17.5	—	測定対象外		測定対象外	
水質	pH	5.0~9.0	6.3~7.2	5.8~8.6	7.3~7.9	5.0~9.0	7.5~8.3	5.0~9.0	6.5~7.7
	BOD (mg/l)	600	15	160	5.0	600	150	1,500	154
	COD (mg/l)	600	5	180	6.0	600	43	—	—
	SS (mg/l)	600	4	120	7.6	600	76	1,500	153
騒音	朝 (dB)	60	—※2	60	48	50	43	60	43
	昼間 (dB)	65	55	65	50	55	46	65	43
	夕 (dB)	60	55	60	49	50	41	60	40
	夜間 (dB)	55	—※2	50	48	45	41	50	42
振動	昼間 (dB)	65	35	65	31	70	26	65	<30
	夜間 (dB)	60	—※2	60	30	65	<25	60	<30

※1 大気汚染防止法(大気)、大阪府下水道条例(水質)、大阪府生活環境の保全等に関する条例(騒音・振動)に基づいています

※2 朝および夜間については、設備稼働状況および記録チャート等において基準を下回っているため、測定していません

※3 宝達志水町公害防止協定に基づいています

※4 滋賀県公害防止条例(大気)、多賀町公害防止および環境保全に関する協定(水質・騒音・振動)に基づいています

※5 生駒市公害防止協定に基づいています

## Stakeholder's Voice 社員

### 奈良研究開発センターのエネルギー管理者として

私たちは、エネルギーをより効率的に使用するために、季節ごとの最適な運転設定や太陽光発電設備を導入するなど設備面の省エネルギー対策を実施しています。加えて、センター員による室内照明のこまめな消灯などの活動を通じて、この3年間でエネルギー消費量の7.2%を削減し、地球温暖化防止に貢献することができました。今後も継続してエネルギー管理を通じた環境保全活動を推進していきます。



研究開発本部  
研究開発企画統括部  
研究開発業務室  
早水 康雄(左)  
伊川 義信(中)  
長谷川 弘幸(右)

### 環境保全 活動総括

- 地球温暖化対策や廃棄物対策は、主要事業場の活動により成果をあげてきました。引き続き、全社をあげて環境保全活動に取り組めます。
- 今後は、事務部門や営業オフィスでの活動の定着と推進とともに、生物多様性への対応も含めた、新たな中長期目標設定および水資源への保全策検討を進めます。

# 社会との調和 〈社会貢献〉

## 企業行動宣言

わたしたちは、良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行い、社会と対話し共生します。

## ■ 実践テーマ

■ 2011年度の主な取り組み

## 2 社会貢献

- 医学・薬学の発展、医療への貢献
- 患者さんへの情報提供と交流機会の拡充
- 地域への貢献
- 企業市民としての活動

## 2 社会貢献

### 医学・薬学の発展、 医療への貢献

#### 医学・薬学の発展のために

医学・薬学の発展のために、特に眼科領域においては、研究活動を行っておられる国内のほぼすべての大学に対し研究助成を目的とした寄付を行っています。

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と連携して、2005年度から「機能高分子科学講座」を開設し、当社の奈良研究開発センターの研究員3名が学生を指導しています。本講座は高度な研究水準を持つ企業と大学が連携して教育・研究を行うもので、学生は当社の施設を利用して研究活動を行うことができます。

アジア諸国においても、眼科医の育成を支援しています。中国では中華眼科学会奨学金に、韓国では眼科研究基金に資金提供を行っています。加えて、国際学会が主催する発展途上国での眼科医養成のためのプログラムに対する資金提供を行っています。



指導に関わらせていただいた学生さんが最優秀学生賞を受賞

#### 失明予防のために

発展途上国での失明予防などに取り組むヘレン・ケラー・インターナショナルや、角膜移植の普及に取り組む財団法人日本アイバンク協会の失明予防の活動を展開する財団法人日本失明予防協会などに毎年寄付を行っています。

眼科医が不足している発展途上国に出向いて、白内障の手術などの治療や、現地の眼科医の養成に取り組んでおられる国内の医療関係者に対して、必要な医薬品等の提供を行っています。



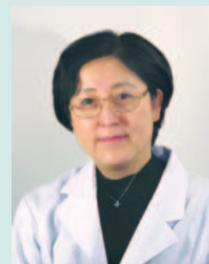
ヘレン・ケラー・インターナショナルによる失明予防活動  
(写真提供:ヘレン・ケラー・インターナショナル)

## Stakeholder's Voice 医師

### 参天製薬が、中国と日本眼科界の友好的な橋渡しとなることを願って

参天製薬は1989年に中国で事業を開始し、2005年には参天中国が設立され、これまで中国の眼科患者への高品質な製品提供を通して多大な貢献を行ってこられました。さらにこの間、基礎研究学会、大学院生指導教師の育成、眼科奨学金、内陸の医師に対する支援、優秀論文の選出など数々のサポートもいただいています。これからも中国と日本の眼科界の友好的な橋渡しとなることを願っております。

リ シャオシン  
北京大学人民医院眼科主任教授 黎 晓新先生



## 患者さんへの情報提供と 交流機会の拡充

参天製薬は基本理念に基づき、目とリウマチに関わる医療と福祉への貢献を通じて社会に寄与することを目指しています。このことを実践するためには、医療関係者の方だけでなく、患者さんとの接点を持つことが大切だと考えています。

病気は早期発見・早期治療が重要です。このため、医療関係者の方々が中心となって全国各地で開かれている「目の愛護デー」(毎年・10月10日)の催しのお手伝いをはじめとして、「ドライアイ」については、ポスターの掲載と当社ホームページを通じた情報発信を行っています。加えて慢性疾患である「緑内障」や「リウマチ」については、患者さんが正しい理解に基づく適切な治療を継続して受けたいだけのように、医療機関、患者会の催しなどを通じて病気や治療法を解説した冊子などを提供しています。



「患者さんの集い」にて、病気や治療法、日常生活におけるハビリティなどを解説した冊子などを提供



ドライアイについての啓発用ホームページ

Web <http://www.help-dryeye.com/>

また、社員一人ひとりが患者さんと直接お話をする機会を持つことが、患者さんが疾患で困っておられることを知り、患者さんの立場を真に理解した事業活動の実践につながると考えています。具体的には、患者会の集まりへの参加などを通じて、直接、患者さんの声を聞かせていただく機会を持つこと、視覚障がい者団体などとのスポーツを通じた交流やボランティア活動への参加による交流機会を増やしていくことに努めています。



大阪府立および市立視覚特別支援学校との交流試合

## Stakeholder's Voice 患者会

### 患者さんの負担が少ない良薬への期待と、早期治療啓発への願い

製薬会社への一番の期待は、「良い薬」の開発です。薬も増え、失明を予防できるようになってきましたが、複数の薬が必要であるなど、患者さんの負担は少なくありません。もう一つは、私たちが最も力を入れている活動である、患者さんに、一日でも早く気づいて治療を受けていただくこと。このための啓発活動の支援もお願いしたいと考えています。

緑内障フレンド・ネットワーク 事務局長 野田 泰秀様



※盲重複障がい  
知的障がいに加えて、視覚障がい  
のある方

## 地域への貢献

### 地域イベントへの参加

滋賀県彦根市にある盲重複障がい<sup>ちようふく</sup>のある方々のための支援施設である「彦根学園」の学園祭に、滋賀工場および子会社クレールの社員が、ボランティアとして毎年参加しています。

また、関西文化学術研究都市（愛称：けいはんな学研都市）・高山地区に立地する奈良研究開発センターでは、毎年11月に「高山サイエンスタウンフェスティバル」を奈良先端科学技術大学院大学などと共同開催し、目の健康相談や当センターの紹介展示を行っています。



「高山サイエンスタウンフェスティバル」における紹介展示  
(奈良研究開発センターにて)

### 教育支援活動

地域の学校を対象に、研究者や薬剤師の仕事について出張授業を行いました。また、能登工場と滋賀工場では、近隣の学生や地域団体、海外からの医師など、多岐にわたる方々の工場見学を受け入れています。2011年度は4回の出張授業と、両工場合わせて33回621名の工場見学を実施しました。

### 事業所周辺の美化活動

地域の環境美化に貢献する2011年度の活動として、本社地区では事業所周辺の清掃を年2回、滋賀工場では工業団地や多賀駅周辺の清掃などを年4回、能登工場では千里浜海岸の清掃活動や、宝達山と白虎山の草刈りなどを年4回それぞれ実施しました。

奈良研究開発センターでは、奈良県生駒市周辺の自治会を中心に展開している「富雄川クリーンキャンペーン」に2002年度から参加しています。2011年度は延べ5回68名が参加し、草抜き作業やコスモスの種まきを行いました。



「富雄川クリーンキャンペーン」での活動

### 防火・防災訓練の実施

本社、研究所、工場などの事業場では地元の消防署にも協力いただきながら、防火・防災訓練を定期的に行っています。2012年5月に本社で実施した防火・防災訓練では、自治会の会長、災害救助部の方々にも訓練の様子を見学いただきました。当社の取り組みについて理解を深めていただくとともに、ご意見やご要望などを伺いました。



地元の消防署にも協力いただいた防火・防災訓練

## Stakeholder's Voice

地域

### 地区として連携した 防火・防災体制を整備したい

今回、本社の消防訓練を見学する機会をいただいたことで、地元企業で定期的な訓練が行われていることがわかり大変安心いたしました。防火・防災は“地域で取り組んでこそもの”であり、地域全体で協力・連携した防火・防災体制の整備に取り組んでいきたいと思っておりますので、地区の防災訓練に会社側からも見学にきていただくなど、今後は連携した活動を深めていくことを希望します。



大阪市東淀川区  
下北振興町会  
たかひろ  
濱田 考洋会長

## 企業市民としての活動

### 東日本大震災被災地の復旧のために

2011年3月に発生した東日本大震災では、被災地域への医薬品の提供に加え、1億円の義捐金を拠出するとともに、従業員による義捐金と同額を会社が拠出するマッチング・ギフト方式による寄付も併せて実施しました。また、被災地の復旧支援を目的として、社員から希望者を募り、災害ボランティアを派遣しました。参加申し込みのあった数百名の社員の中から

約60名が岩手県沿岸部に赴き、瓦礫の撤去、仮設住宅の訪問活動などを行いました。



岩手県沿岸部における復旧活動(1)



岩手県沿岸部における復旧活動(2)

### 韓国で暖房用の練炭を配布

2011年12月、韓国参天製薬では暖房用の練炭を、一人暮らしのお年寄りや身体の不自由な方のご家庭などに配布しました。韓国の冬はマイナス10度になることも多く、一般的にガス式の床暖房が普及していますが、一部のご家庭では今でも練炭が燃料として使われています。「年越しを暖かく迎えていただきたい」との願いを込めて全社員で参加したこの活動は、地域の方々と触れ合う素晴らしい機会となりました。



韓国参天製薬全社員による練炭運び

### グアテマラの医療に貢献

米国の子会社であるサンテン・インクでは、社会情勢が不安定で医療インフラも十分に整備されていないグアテマラに、民間医師団や薬剤師、ボランティアを派遣する非営利団体「Help International」を2004年から支援しています。また、サンディエゴ大学が年に1回実施しているボランティア活動に、サンテン・インクの社員も毎年参加し、医師や薬剤師、一般のボランティアの方々と共に、グアテマラの人々への診療をサポートしています。



厳しい環境の中でも、笑顔を忘れないグアテマラの子どもたち



徒歩で丸2日かけて病院へやってくる人も

## Stakeholder's Voice

社員

### 支援を通じて何かを感じられる グアテマラのボランティア活動

私たちはJoyoba (ホホバ) という町にある病院の一室を借りて活動しました。普段、当たり前のように車に乗り、電気や水を使い、医師の治療も問題なく受けることができる私たちの生活がいかに恵まれているか。厳しい環境の中で生活されている方々がたくさんいることに気づき、自分自身を見直す良い機会となりました。



サンテン・インク  
セシル・エスクレド

### 社会貢献 活動総括

- 医学・薬学や医療の発展のための支援活動や、患者さんに適切な治療を早期に受けていただくための疾患啓発活動に継続的に取り組んできました。
- 今後も、引き続きこれらの支援活動に取り組むとともに、視覚障がい者団体などとの連携を行い、福祉領域での活動を拡充していきます。

# ステークホルダーダイアログ

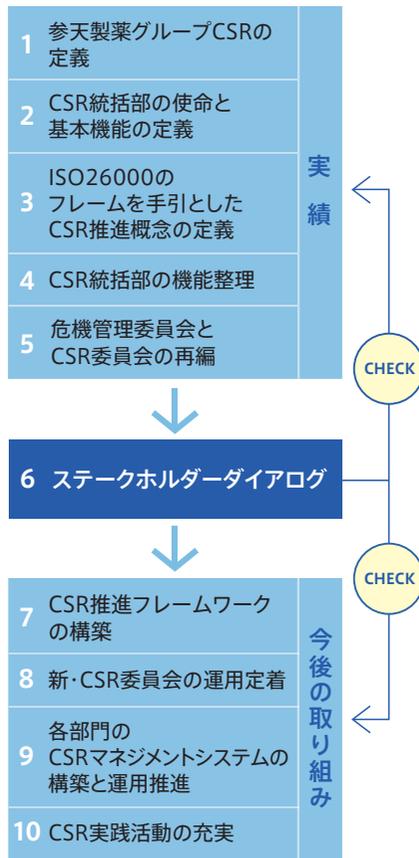
## ISO26000を手引としたCSR体系の再構築に関するレビュー

参天製薬グループは「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指して、グローバルな事業活動を推進しています。CSRマネジメントにおいても、社会的責任に関する国際規格ISO26000を手引に、CSR体系の再構築に着手しました。この取り組みは今後、グループ全体に浸透を図る計画ですが、活動の実効性を高めるために、これまでの活動と今後の計画に対してCSRレビューフォーラムの皆様からご意見をいただきました。

### ステークホルダーダイアログ実施要項

主催：参天製薬CSR統括部  
 開催日：2012年3月27日（火曜日）  
 開催場所：参天製薬本社  
 テーマ：ISO26000を手引としたCSR体系の再構築について  
 協力：CSRレビューフォーラム

### 〈CSR体系の再構築および推進プロセス〉



### review 1 CSR体系の再構築に至った経緯

- ISO26000のフレームそのままに自社のCSRを推進しようというアプローチは、新しい仕組みを作っていくという意志が感じられ、実験的で非常におもしろい試み。
- これまでのCSR体系を当てはめていった感が否めない。
- 第1ステップとしてここまで来られたことは、大きな成果。
- 社会からの要請を新たなCSR体系づくりの起点としたことを、しっかりと社員に伝えていくことが重要。

#### 参天製薬の考え方

- 基本理念を大切にす思想がまずあり、「倫理綱領」に基づく活動を浸透させることが当社の基本的な考え方。
- 何をもって推進していくかという材料を探した時に、折良くISO26000が発行され、当社のイメージと一致し、これを手引として実行することとなった。
- CSR推進フレームワークが確立した時点から社員への浸透を図る。

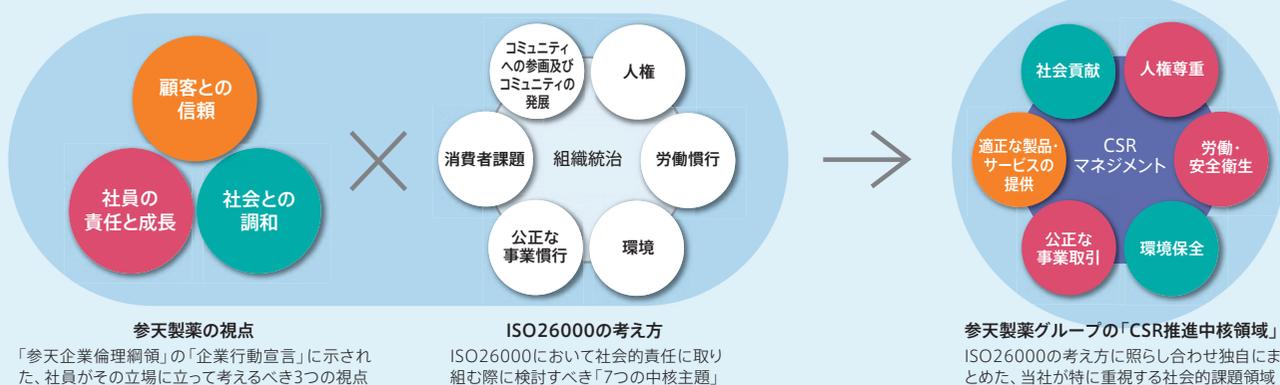
### review 2 ISO26000活用の意義

- グローバルに事業を展開する上で、ISO26000の導入は会社の評価に結びつくので非常に良いこと。
- 中国への事業展開がより活発になる時期にISO26000を導入されたのは良いタイミングだと思う。
- 社員がISO26000の精神を考えるきっかけともなる。CSRを実践することは個々の意識を変えていく。
- 多面的なステークホルダーエンゲージメントを実施することで、新たに開けていく面があると思う。

#### 参天製薬の考え方

- ISO26000を手引とした実践活動は、「肝心なことは何かを考えよ」という、まさに当社の理念に重なっていく。
- 対話をして、エンゲージメントをして、デューデリジェンスを実施し、当社の課題を見つけ、そのPDCAを回していく。
- 人を変えていく、風土を変えていく、当たり前前を当たり前前にできるようにする、それが社会的な責任につながる。

### 「参天企業倫理綱領」にISO26000の考え方を取り入れて設定した参天製薬グループにおける「CSR推進中核領域」



参天製薬



森島 健司  
執行役員  
人材組織開発・CSR本部長

川畑 裕一  
人材組織開発・CSR本部  
理事 CSR統括部長

CSRレビューフォーラム：レビュアーの皆様



山口 智彦様  
CSRレビューフォーラム  
共同代表

古谷 由紀子様  
公益社団法人日本消費生活  
アドバイザー・コンサルタント協会

熊谷 謙一様  
NPO法人日本ILO協議会

黒田 かをり様  
一般財団法人CSOネットワーク

review 3

7つの中核主題の取り入れ方

- 7つの中核主題をもとに、なぜ御社がこの7つの領域を選んだのかという真意を、社員に浸透させることが重要。
- 御社が独自に名付けた、CSR推進のための7つの領域がこの内容でいいのかどうか、継続的な検討が重要。
- 表現としてISO26000の中核主題のみを取り入れたように受け止められてしまう可能性がある。
- 7つの中核主題のみを基点にすると、他が抜け落ちたまま一人歩きしていく危険性もあるので、工夫が必要。

参天製薬の考え方

- 当社の課題と結びつけた方が社員にとって理解し、浸透しやすいだろうと判断し、あえてISO26000の中核主題を言葉を変えて記述した。
- ISO26000を手引にする上でも実効性に最も重きを置いた。なによりも重要なのは社員の理解度である。
- ISO26000の社会的責任の原則については、上位概念の説明に加える。

review 4

ISO26000活用における留意点

- 社員全員がISO26000を本当に理解するのは簡単ではない。工程表をつくり、今どの段階にいるのかを明確にしながら、変更もできる仕組みがよい。
- 企業側が考えるステークホルダーの優先順位と社会の実態とが正しいかどうか、すり合わせていくことが必要。
- バランスを重視するISO26000において、女性の視点をもっと取り入れては？
- 御社が社会に与えているマイナス影響も含めて、客観的にステークホルダーと共に確認していかねばならない。

参天製薬の考え方

- 全社員にCSR体系の浸透を図るためには、長期的な工程表が必要だと認識している。短期的なPDCAサイクルと長期的なPDCAサイクルをしっかりと回していく仕組みを作らないと、根本的に改善しない。
- 当社が医療に貢献し、企業として存続し続けるためには、CSRに根ざした経営が必要であることを伝えねばならない。

review 5

今後の運用に向けた課題

- グローバルな舞台においては、日本国内では無かったような意外な問題が出てくる。特に、人権の問題というのは、この先、念頭に置かれた方がいい。
- 海外展開する際も、国内で構築した事業を通じた社会貢献の観点で、推進してほしい。
- ISO26000を表層的な形をとって一人歩きさせることは避けなければならない。
- 社員は非常に重要なステークホルダー。まず社員がいきいきと仕事のできる環境を提供することにつなげてほしい。

参天製薬の考え方

- これから実績を作り組織に定着させることが第一のハードル。これを会社として当たり前の作業にしていきたい。
- CSR体系を誰にでも分かりやすく工夫し、その説明もきっちりと行っていかなければならない。
- 今後、急速な海外事業の成長を考えた時、CSRマネジメントシステムのPDCAサイクルの構築を急がなくてはならない。

※当レポートは、主なコメントを抜粋、要約したものです。

企業行動宣言における3つの視点と参天製薬グループの「CSR推進中核領域」

企業行動宣言における3つの視点	企業行動宣言に基づくCSR推進のための実践テーマ	参天製薬グループの「CSR推進中核領域」
顧客との信頼	1 高品質の医薬品等の提供	適正な製品・サービスの提供
	2 的確かつ迅速な情報提供	
	3 有用で革新的な医薬品等の研究開発	
社員の責任と成長	1 個人の尊重と快適な職場環境の実現	人権尊重
	2 経営資源の保護と活用	
	3 利害関係者との公正かつ透明な関係の維持	
社会との調和	1 環境保全	環境保全
	2 社会貢献	

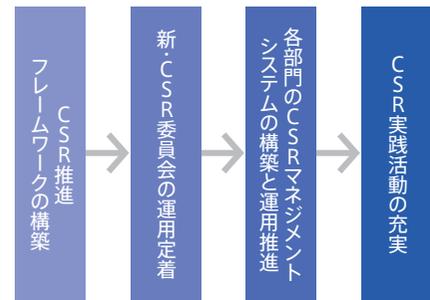


# CSRマネジメントの推進／今後の取り組み

CSRマネジメントを推進する上で当社が取り組みを進めているCSR体系の再構築は、参天製薬グループのCSRの定義に始まり、今年度は委員会と組織の再編を行うなど、さらにその取り組みを前進させました。今後はCSR体系をグループ全体に浸透させていくためにも、CSR推進フレームワークの構築を急ぎ、より具体的な活動目標を設定しながらCSR実践活動の充実を目指します。

そのために、当社の企業行動宣言における3つの視点を大切に守りながら、社会的責任に関する国際規格ISO26000を手引として設けた「CSR推進中核領域」をもとに、今後の取り組みとして中期活動テーマを掲げ、このテーマを指標に年度ごとの活動計画を定め、CSR活動を推進していきます。

今後の推進プロセス



企業行動宣言における3つの視点	CSR推進中核領域	中期活動テーマ	次年度の活動計画
顧客との信頼	CSRマネジメント	I. CSRマネジメントシステムの構築と円滑な運営 II. ステークホルダーエンゲージメントの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全社員にCSR体系の浸透を図るため、CSR体系をより分かりやすく整理し全社員に向けた説明を行います。</li> <li>●CSRマネジメントシステムのPDCAサイクルの構築を推進します。</li> <li>●有識者以外のステークホルダーとのダイアログを実施します。</li> <li>●CSRレポートをさらに発展させ多様な媒体による情報開示に取り組めます。</li> </ul>
	適正な製品・サービスの提供	I. 公正・適切・迅速な情報提供・販売活動 II. 有効性・安全性に優れた製品開発・提供 III. 適正利用のための啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療現場のニーズに対応した、より有用で質の高い情報を迅速に提供する活動をさらに進化させます。</li> <li>●透明かつ公正な活動を行うため、公正競争規約やプロモーションコードの遵守をさらに徹底します。</li> <li>●信頼性保証体制の円滑な運用により、製品が普及する過程における品質、安全性に関するすべての信頼性の確保に取り組めます。</li> <li>●グローバル標準の品質システムおよびGMP基準であるPIC/sガイドラインに国内工場を適合させる活動を開始します。</li> <li>●グローバル臨床開発体制の強化により、地域ごとの製品ラインナップを拡充できるように取り組めます。</li> <li>●動物実験の科学性、信頼性、動物福祉のさらなる向上のため、外部評価機関による「動物実験実施施設認証」の取得に取り組めます。</li> <li>●患者さんや一般生活者の方々に対し、疾患や医薬品の情報をホームページなどの多様な媒体により提供できるよう拡充します。</li> </ul>
社員の責任と成長	人権尊重	I. 社内における人権尊重意識の醸成と実践 II. 事業活動における人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社内における人権尊重のさらなる醸成を図ります。</li> <li>●事業活動における関係先への人権尊重の確認を推進します。</li> </ul>
	労働・安全衛生	I. 労働安全の確保 II. 健康増進 III. 労働環境・労働条件の整備 IV. 従業員の能力開発支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全衛生マネジメントシステムを充実することで、労働安全を確保し、労働環境と労働条件を向上させ、健康増進を図ります。</li> <li>●グローバル化に対応した人材の育成・配置を行い、社員が能力を最大限に発揮できる制度を整備します。</li> </ul>
	公正な事業取引	I. 社内におけるコンプライアンス意識の醸成と実践 II. 事業活動におけるコンプライアンス確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療関係者との適切な関係の維持と透明性の向上のため、情報開示に向けた準備を進めます。</li> <li>●患者団体との関係についても、体制整備を推進します。</li> <li>●取引先を含めた法令遵守、人権尊重、環境保全などを担保するための仕組みづくりに取り組めます。</li> </ul>
社会との調和	環境保全	I. 地球温暖化防止 II. 資源の持続的な利用 III. 環境汚染の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務部門や営業オフィスでの環境保全活動の定着と推進を図ります。</li> <li>●生物多様性への対応も含めた、新たな中長期目標を策定します。</li> <li>●水資源保全策の検討を進めます。</li> </ul>
	社会貢献	I. 事業活動による貢献 II. 事業分野における医療の発展と福祉への貢献 III. 企業市民としての活動による社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医学・薬学や医療の発展のための支援活動を実施します。</li> <li>●患者さんに適切な治療を早期に受けていただくための疾患啓発活動に取り組めます。</li> <li>●視覚障がい者団体などとの連携により、福祉領域での活動を拡充します。</li> </ul>

## 第三者意見

「参天製薬CSRレポート2012」は、読み応えのある豊饒な報告書です。CSRに対する方針と活動だけではなく、参天製薬がなぜ存在し、どのような思いで経営活動を進めているか、その実態と実績はどのようなかに至るまで、この報告書に概ね詰まっているといつて過言ではありません。

その理由をトップメッセージが明確に示しています。「天機に参与する」との基本理念のもと、「患者さんと患者さんを愛する人たち」から揺るぎない信頼を得ることを特に大切に、事業、CSRで世界的存在意義のある企業を目指すことが謳われています。さらには、社員一人ひとりをCSRの核と位置づけ、その意識をより高めるため、「真の顧客志向」と「外向きの思考・姿勢」など企業風土の改革にも着手したことが述べられています。企業の本質を把握し、理念と実践の両面に透徹した眼を持つ経営トップの志と行動が文字と行間から伝わってきます。

特集は、一見すると事業拡大の報告とも見える事例です。しかし丹念に読み進めると、基本理念に裏打ちされた、またトップメッセージの具現化をめざした社員の方々の努力と過程が浮かび上がります。

CSRの取り組みの具体的内容は、「参天企業倫理綱領」が重視する「顧客」「社員」「社会」の3つの視点ごとにまとめられています。そして、「企業行動宣言」に基づき設定された実践テーマに関して、多様かつ大小さまざまな取り組みが図表や関係者のコメントとともに具体的に紹介されています。「顧客との信頼」報告



社会と企業研究所 所長  
立命館大学大学院  
経営管理研究科 客員教授  
**池田 耕一氏**

1971年、京都大学法学部卒業。同年、松下電器産業入社。本社・関係会社・事業部で人事業務を担当。その後、初代企業倫理室長として、コンプライアンス・CSRに一貫して取り組む。また、初代リスクマネジメント室長を兼務しつつ、リスクマネジメント・危機管理・内部統制を研究・実践。2007年3月、同社退職。立教大学大学院ビジネスデザイン研究科教授を経て、2012年4月より現職。

を筆頭に、専門性の高い内容の説明に真正面から取り組んでいる姿勢に言行一致を感じ、信頼感が高まります。また、神は細部に宿るとの言葉のとおり、細部にもわたる説明内容に高い真実性が見えます。

今後は、この基本姿勢と豊饒性を維持しつつ、報告事項のより一層の取捨選択や視覚性の向上などにより、いわば「読む、そして、見る報告書」へ進んでいけることを心から期待します。蛇足ですが、今後のCSR推進フレームワークの構築の際には、ISO26000における人権や労働など中核主題の幾つかは3つの視点の一つである「社会との調和」との親和性が高いことにもご留意ください。

## 第三者意見を受けて

池田先生にはお忙しい中、本報告書を細部までお読みいただき、当社の考え方や目指す姿などを的確にご理解くださった上で、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。

当社は「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」の実現を目指しています。その実現に向け、基本理念に基づいた事業活動とCSR活動を一体化させることが必要との認識の下、ISO26000を参考にした当社独自の推進フレームワークの構築に取り掛かっております。本報告書は端境期にあたり、「これまで」と「これから」の架け橋的な位置付けで編集しました。ご指摘いただいた「読む、そして、見る報告書」に近づけるため、早速検討を開始し、次年度の報告書に反映させていく所存です。また、次年度に向けた取り組みも掲載しましたので、それに沿ってCSR活動を推進して参ります。



人材組織開発・CSR本部  
理事 CSR統括部長  
**川畑 裕一**



連絡先

人材組織開発・CSR本部 CSR統括部

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号

TEL.06-6321-7011 FAX.06-6321-7196

<http://www.santen.co.jp>

下記の販売名は、提供会社の登録商標です。  
「タリビッド」、「クラビット」(第一三共株式会社)、「アザルフィジン」(ファイザー・インク)、  
「チモプトール」(メルク・アンド・カンパニー・インコーポレーテッド)

2012年9月発行

